

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査結果報告書

平成 29 年8月

多度津町

目次

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1
調査の概要.....	2
調査目的.....	2
調査実施の概要.....	2
留意点.....	2
回収結果.....	2
回答者の属性.....	3
性別.....	3
年齢.....	3
地区.....	4
記入者.....	4
認定状況.....	5
問1 あなたのご家族や生活状況について.....	6
問2 からだを動かすことについて.....	9
■転倒リスクのある高齢者.....	13
■運動器機能の低下している高齢者.....	15
■閉じこもり傾向のある高齢者.....	17
問3 食べることについて.....	19
問4 毎日の生活について.....	23
■手段的自立度(IADL).....	26
問5 地域での活動について.....	28
問6 たすけあいについて.....	31
問7 健康について.....	35
■うつ傾向の高齢者.....	39

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査の概要

調査目的

本調査は、「第8期多度津町高齢者保健福祉計画・第7期多度津町介護保険事業計画」を策定するにあたり、「どこに」「どのような支援を必要としている方が」「どの程度生活されているのか」を把握し、地域の課題を反映した、より精度の高い介護予防事業等の実施に資することを目的として「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施しました。

調査実施の概要

調査対象	平成28年12月31日現在、65歳以上で、①要介護等の認定を受けていない方、②要支援1・2の認定を受けている方のうち、無作為に抽出した1,500人の町民
調査方法	郵送により調査票の送付、回収を行った。
実施期間	平成29年2月1日～平成29年2月28日
有効回収率	1,185(有効回収票)／1,500(配布件数)＝79%

留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. グラフは原則として回答者の比率(百分率)で表現しています。
2. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数を示しています。
3. 百分率による集計では、回答者数を100.0%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがあります。
4. 複数回答の場合、百分率の合計が100.0%を超える場合があります。

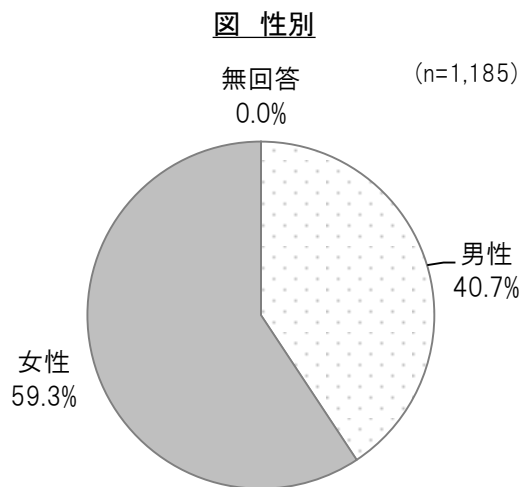
回収結果

	全体	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100歳 以上
全体	1,185人 100.0%	324人 27.3%	272人 23.0%	214人 18.1%	212人 17.9%	118人 10.0%	36人 3.0%	9人 0.8%	-
	男性	482人 100.0%	149人 30.9%	119人 24.7%	87人 18.0%	71人 14.7%	41人 8.5%	13人 2.7%	2人 0.4%
女性	703人 100.0%	175人 24.9%	153人 21.8%	127人 18.1%	141人 20.1%	77人 11.0%	23人 3.3%	7人 1.0%	-

回答者の属性

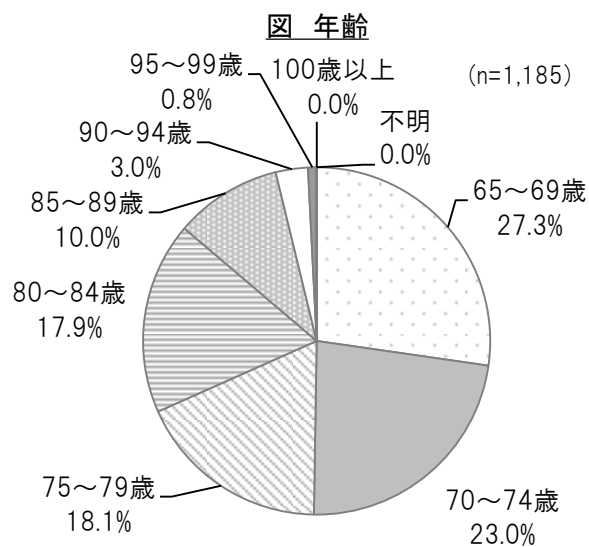
性別

回答者の性別は、「男性」が40.7%、「女性」が59.3%と、「女性」の割合が高くなっています。



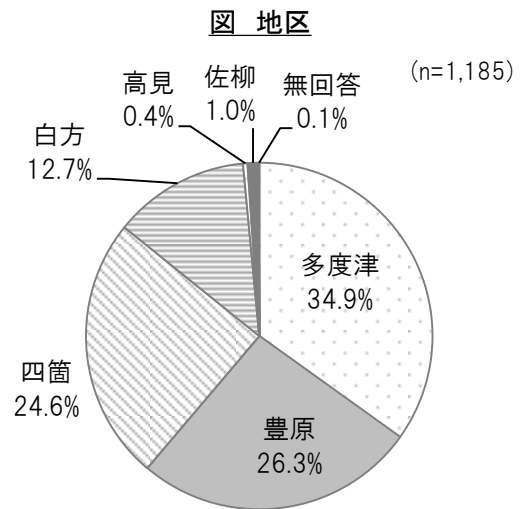
年齢

回答者の年齢構成は、「65～69歳」が27.3%で最も高く、次いで「70～74歳」が23.0%、「75～79歳」が18.1%、「80～84歳」が17.9%となっており、75歳未満が合計50.3%、75歳以上が合計49.8%となっています。



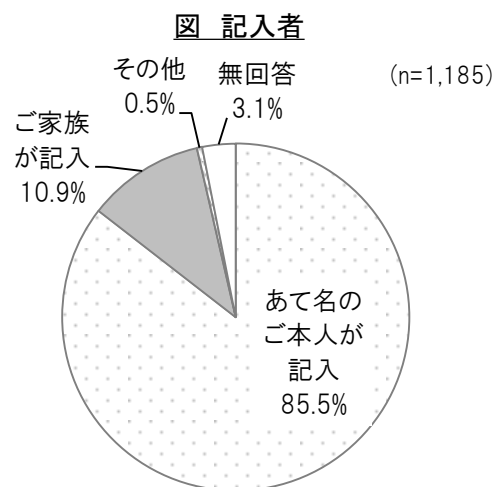
地区

回答者の居住地区は「多度津」が34.9%で最も高く、次いで「豊原」が26.3%、「四箇」が24.6%、「白方」が12.7%となっています。



記入者

調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が85.5%、「ご家族が記入」が10.9%となっています。



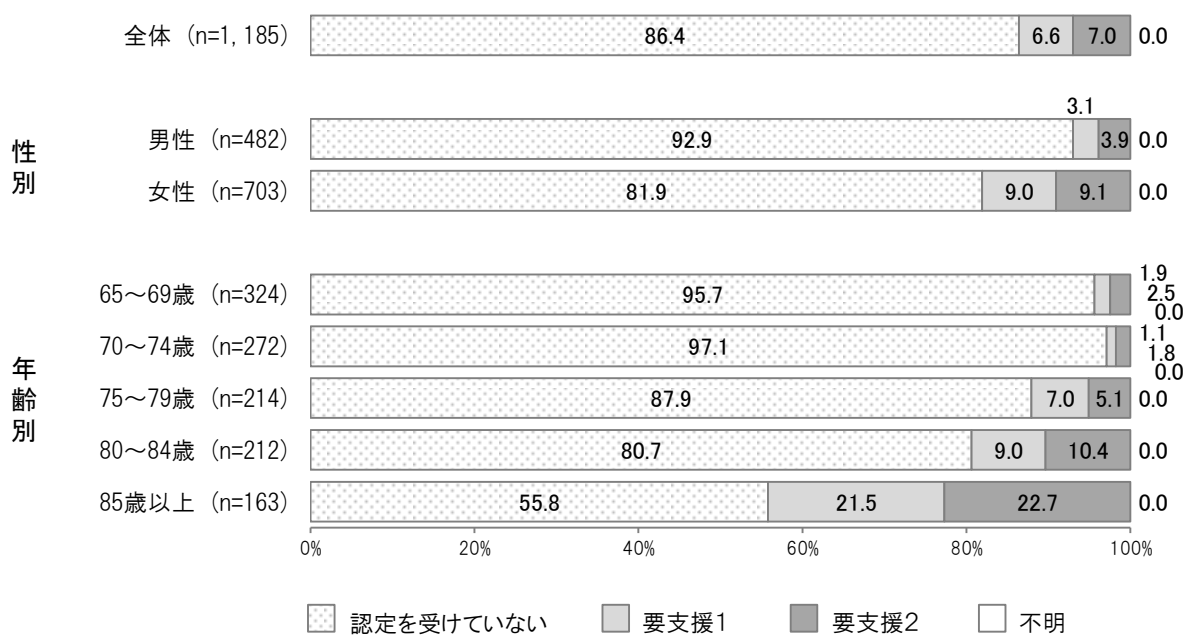
認定状況

認定状況は、「認定を受けていない」が86.4%を占めており、要支援認定者は、「要支援2」が7.0%、「要支援1」が6.6%で、合計13.6%となっています。

性別にみると、「認定を受けていない」は男性92.9%・女性81.9%と男性で割合が高く、女性は「要支援1」と「要支援2」がそれぞれ約10%となっています。

年齢別にみると、要支援認定者の割合は75歳以上から高くなっており、「要支援1」と「要支援2」の合計が75～79歳で12.1%、80～84歳で19.4%、85歳以上で44.2%となっています。

図 性別、年齢別 認定状況



問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

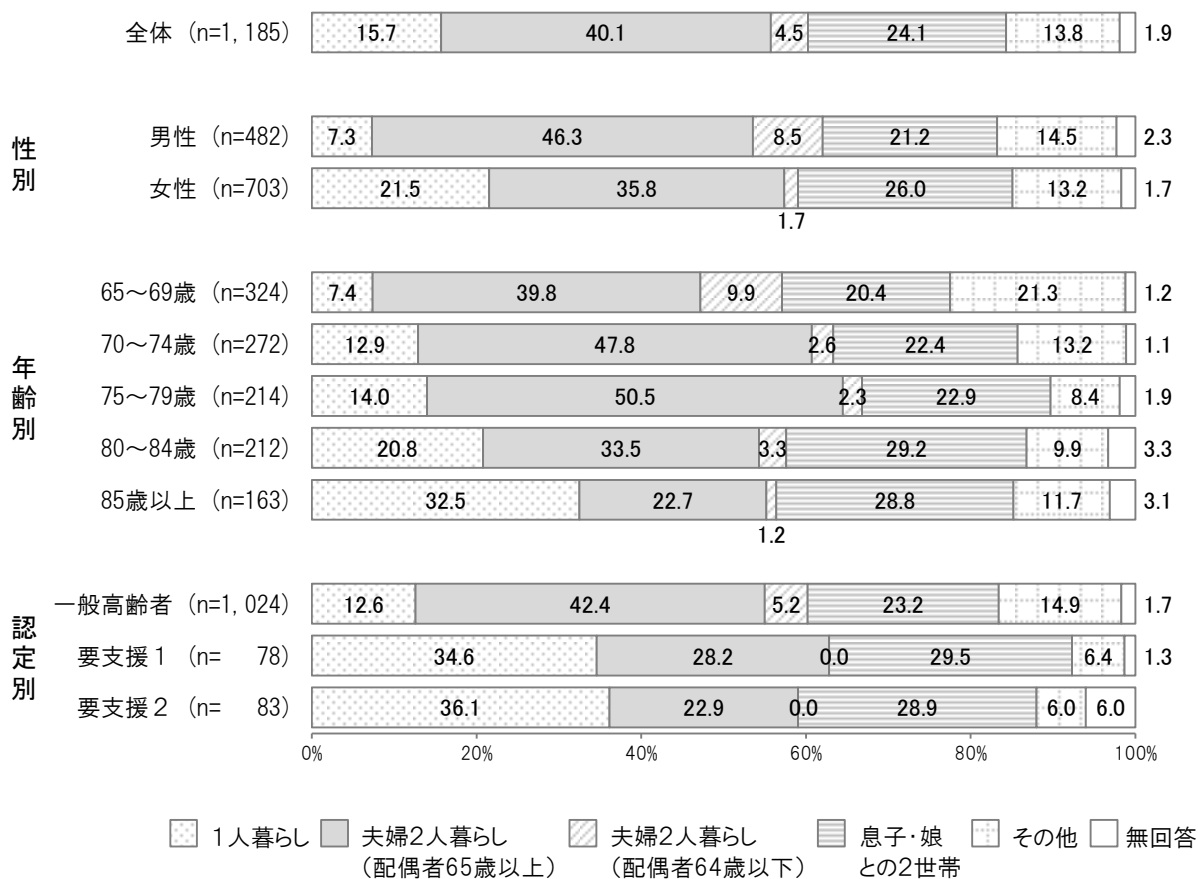
家族構成についてたずねたところ、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が40.1%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が24.1%、「1人暮らし」が15.7%となっています。

性別にみると、男性は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」と「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」の合計が50%を超えています。女性は「1人暮らし」が21.5%と、男性の7.3%より14.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「1人暮らし」の割合が高くなっており、80～84歳では20.8%、85歳以上では32.5%が「1人暮らし」となっています。

認定別にみると、要支援1と要支援2では「1人暮らし」が約35%、「息子・娘との2世帯」が約30%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 家族構成



(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

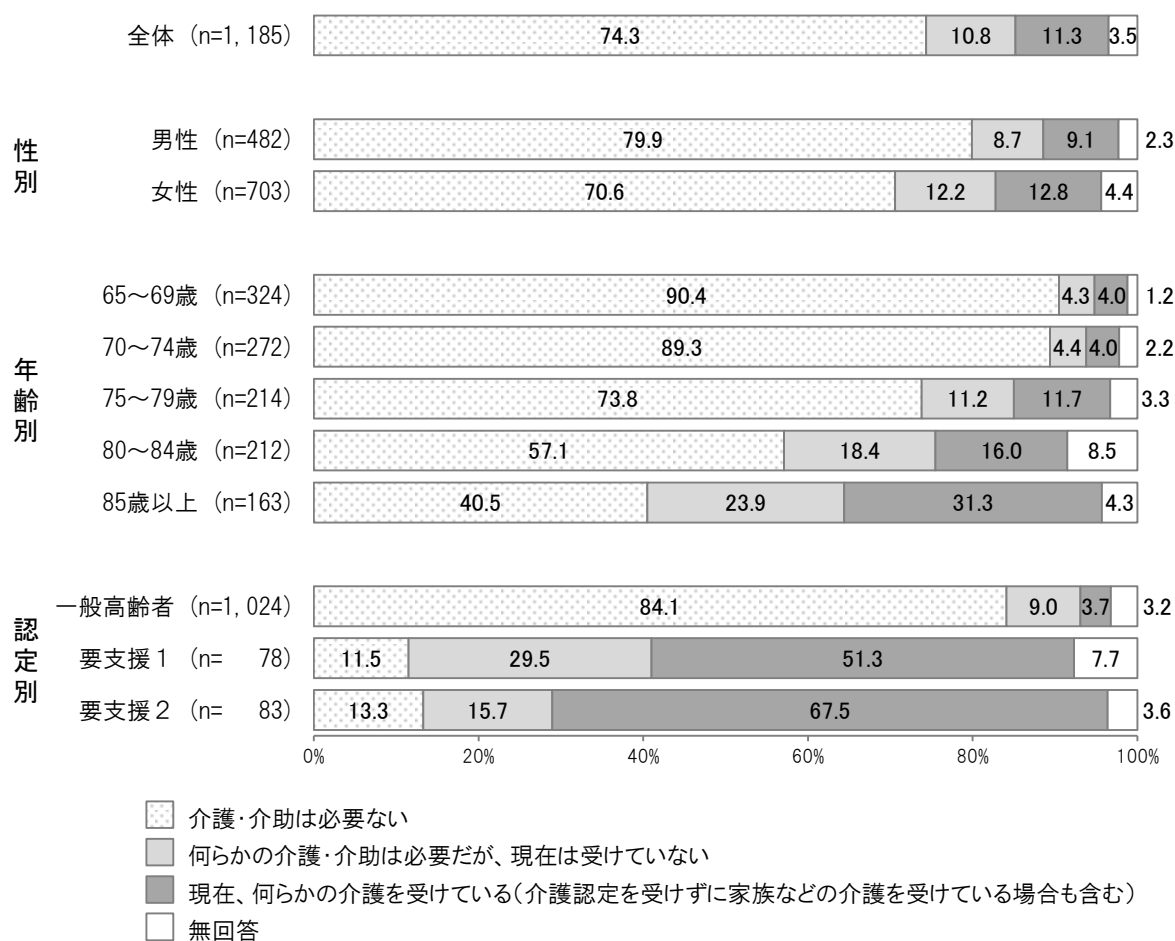
普段の生活における介護・介護の必要性についてたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が74.3%を占めています。一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は10.8%、「現在、何らかの介護を受けている」は11.3%となっており、介護・介助を必要とする人は合計22.1%となっています。

性別にみると、「介護・介助は必要ない」は男性79.9%・女性70.6%で、女性の方が介護・介助を必要とする人が多くなっています。

年齢別にみると、65～74歳では「介護・介助は必要ない」が約90%を占めていますが、75歳以上から介護を必要とする人の割合が高くなり、85歳以上では「現在、何らかの介護を受けている」が31.3%となっています。

認定別にみると、要支援1では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が29.5%、「現在、何らかの介護を受けている」が51.3%、要支援2では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が15.7%、「現在、何らかの介護を受けている」が67.5%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 普段の生活での介護・介助の必要性



(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

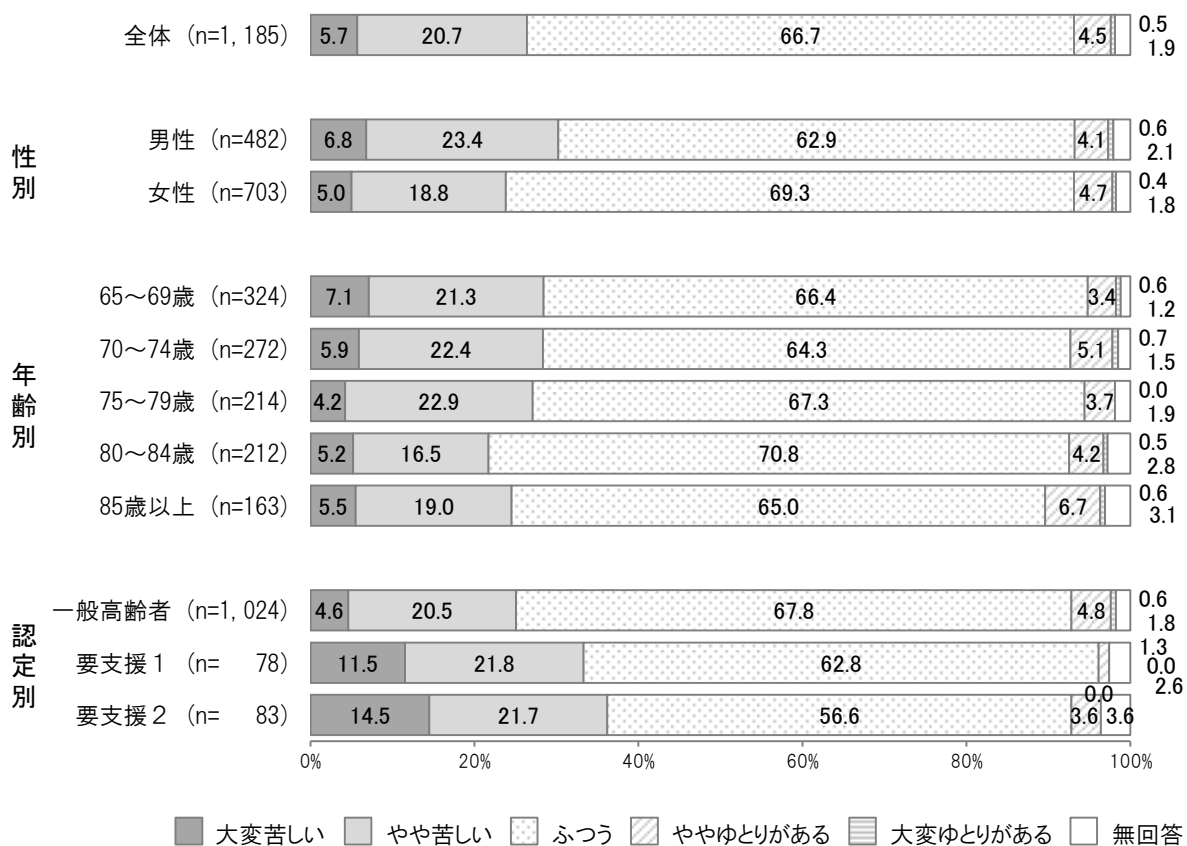
経済的にみた現在の暮らし状況をたずねたところ、「ふつう」が66.7%を占めています。次いで「やや苦しい」が20.7%となっており、「大変苦しい」の5.7%と合計した『苦しい』が26.4%となっています。

性別にみると、『苦しい』は男性30.2%・女性23.8%で、男性の方が6.4ポイント高くなっています。

年齢別にみると、65～79歳では『苦しい』が約30%となっています。

認定別にみると、「大変苦しい」が要支援1で11.5%、要支援2で14.5%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 経済的にみた現在の暮らしの状況



問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

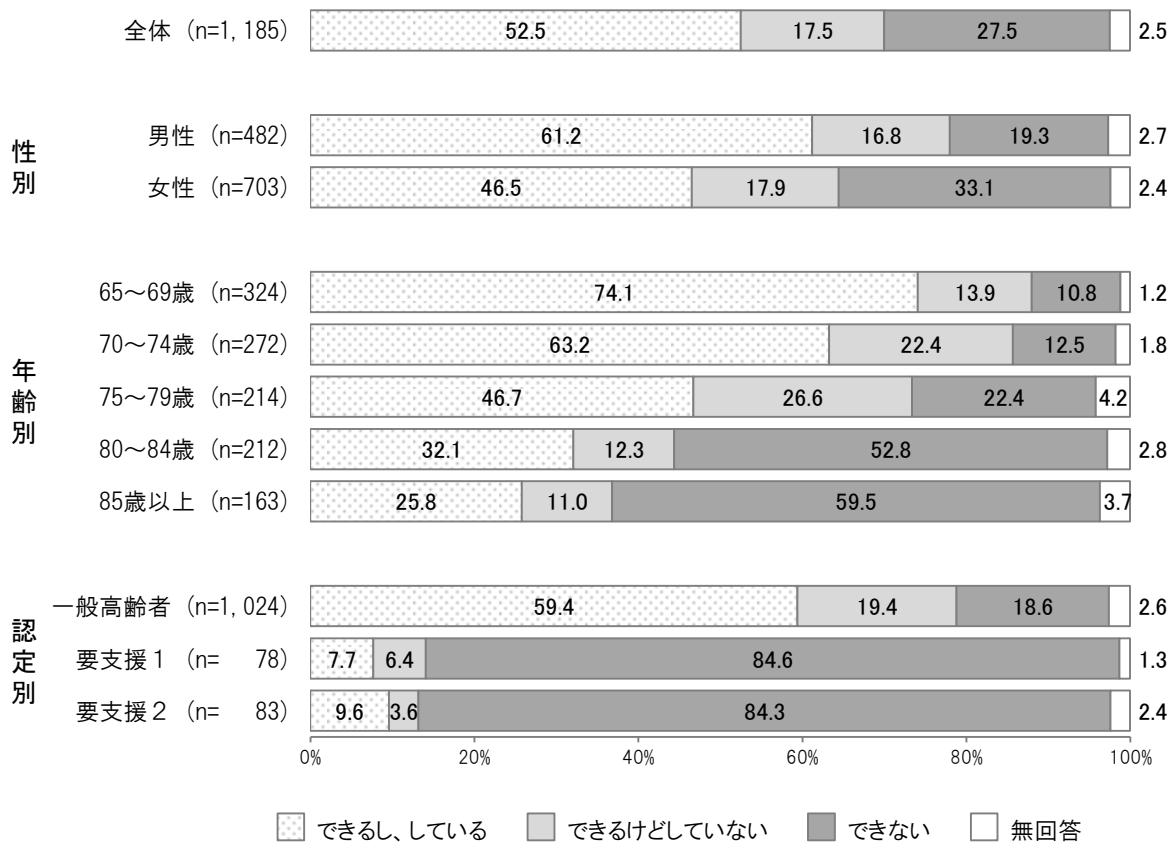
階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかたずねたところ、「できるし、している」が52.5%、「できるけどしていない」が17.5%、「できない」が27.5%となっています。

性別にみると、「できるし、している」は男性61.2%・女性46.5%で、男性の方が14.7ポイント高く、女性は「できない」が33.1%と高くなっています。

年齢別にみると、65～74歳では「できるし、している」が60%以上となっていますが、年齢が高くなるにつれてその割合が低くなり、80歳以上では「できない」が50%以上となっています。

認定別にみると、「できない」は要支援1で84.6%、要支援2で84.3%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

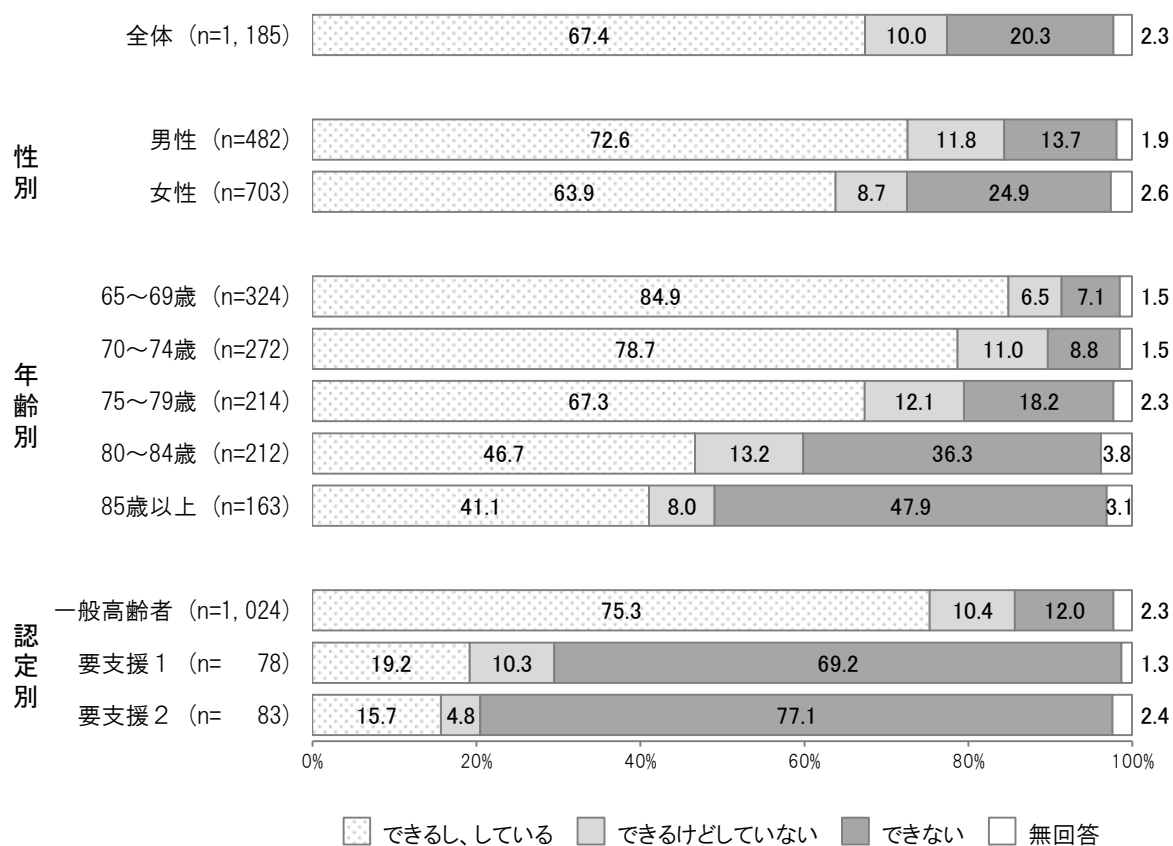
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかたずねたところ、「できるし、している」が67.4%、「できるけどしていない」が10.0%、「できない」が20.3%となっています。

性別にみると、「できない」は男性13.7%・女性24.9%で女性の方が11.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「できない」の割合は、80～84歳では36.3%、85歳以上では47.9%となっています。

認定別にみると、「できない」は要支援1で69.2%、要支援2で77.1%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



(3) 15分位続けて歩いていますか

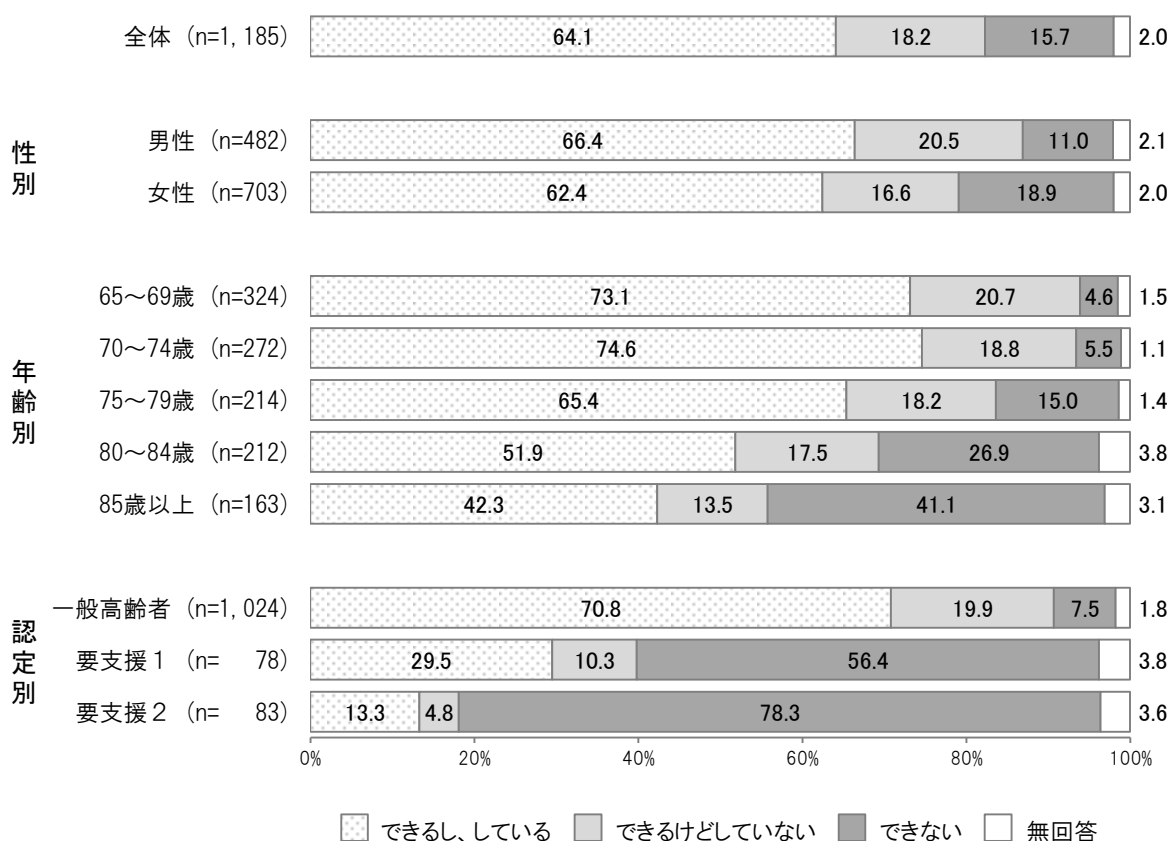
15分位続けて歩いているかたずねたところ、「できるし、している」が64.1%、「できるけどしていない」が18.2%、「できない」が15.7%となっています。

性別にみると、女性で「できない」が18.9%となっており、男性の11.0%より7.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、65～79歳では「できるけどしていない」が約20%となっています。80～84歳と85歳以上では「できない」がそれぞれ26.9%、41.1%となっています。

認定別にみると、「できない」は要支援1で56.4%、要支援2で78.3%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 15分位続けて歩いているか



(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

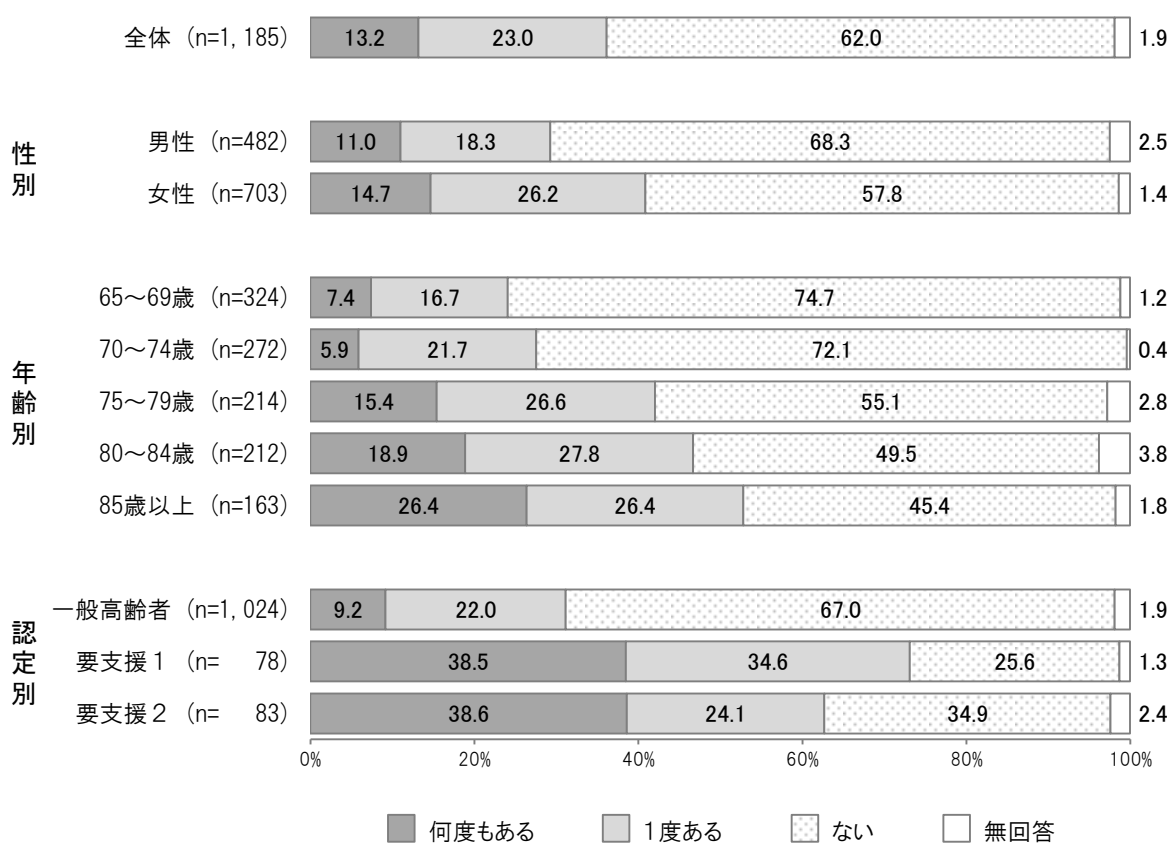
過去1年間に転んだ経験があるかたずねたところ、「何度もある」が13.2%、「1度ある」が23.0%で、転倒経験が『ある』という人が合計36.2%、「ない」は62.0%となっています。

性別にみると、『ある』が男性29.3%・女性40.9%となっており、女性の方が11.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、『ある』は75歳以上では40%以上、85歳以上では50%以上となっています。

認定別にみると、要支援1と要支援2では、「何度もある」が約40%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 過去1年間にける転倒経験

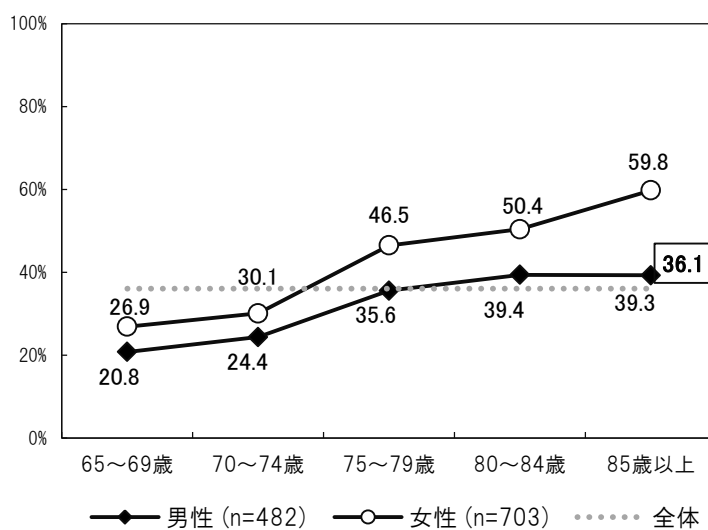


■転倒リスクのある高齢者

問2の(4)の設問は転倒リスクを問う設問となっており、(4)で「1. 何度もある」または「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者にあたります。

転倒リスクのある高齢者の割合は全体では36.1%、性別では男性29.3%・女性40.8%となっており、女性の方が11.5ポイント高くなっています。性年齢別にみると女性の80歳以上では該当者が50%以上となっています。

図 性年齢別 転倒リスクのある高齢者



注) 四捨五入の関係上、「1. 何度もある」と「2. 1度ある」の回答割合の合計と、転倒リスクの該当割合が一致しない場合があります。

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

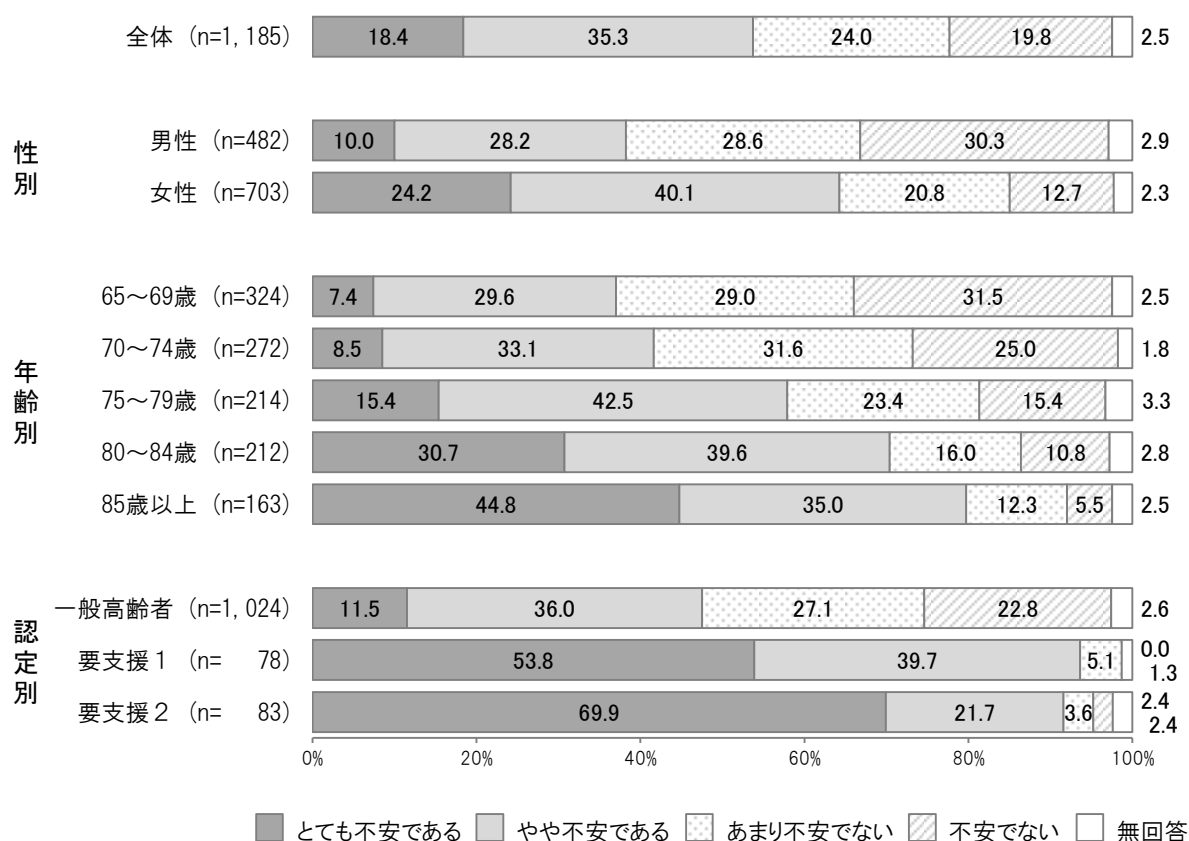
転倒に対する不安は大きいかたずねたところ、「とても不安である」が18.4%、「やや不安である」が35.3%となっており、合計した『不安である』が53.7%となっています。一方、「あまり不安でない」は24.0%、「不安でない」は19.8%で、合計した『不安でない』は43.8%となっています。

性別にみると、『不安である』は男性38.2%・女性64.3%となっており、女性の方が26.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、『不安である』が80～84歳では70.3%、85歳以上では79.8%と高くなっています。

認定別にみると、要支援1と要支援2では、『不安である』が90%以上を占めています。

図 性別、年齢別、認定別 転倒に対する不安



■運動器機能の低下している高齢者

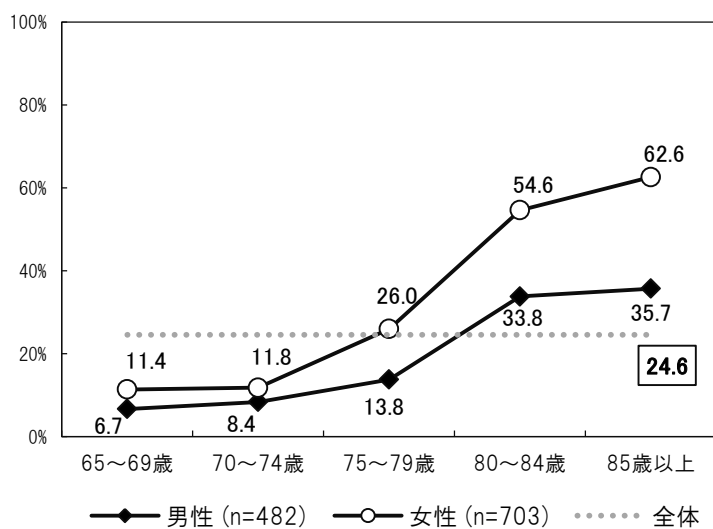
問2の(1)～(5)の設問は、運動器の機能低下を問う設問となっており、この設問で3問以上該当する選択肢が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者にあたります。

運動器機能の低下している高齢者の割合は全体では24.6%、性別では男性15.8%・女性30.6%となっています。

性年齢別に該当者割合をみると、75歳以上の年齢層で該当割合が高くなっており、特に女性の80～84歳では54.6%、85歳以上では62.6%と高くなっています。

設問	該当する選択肢
(1)階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
(2)椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
(3)15分位続けて歩いていますか	3. できない
(4)過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
(5)転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

図 性年齢別 運動器機能の低下している高齢者



(6) 週に1回以上は外出していますか

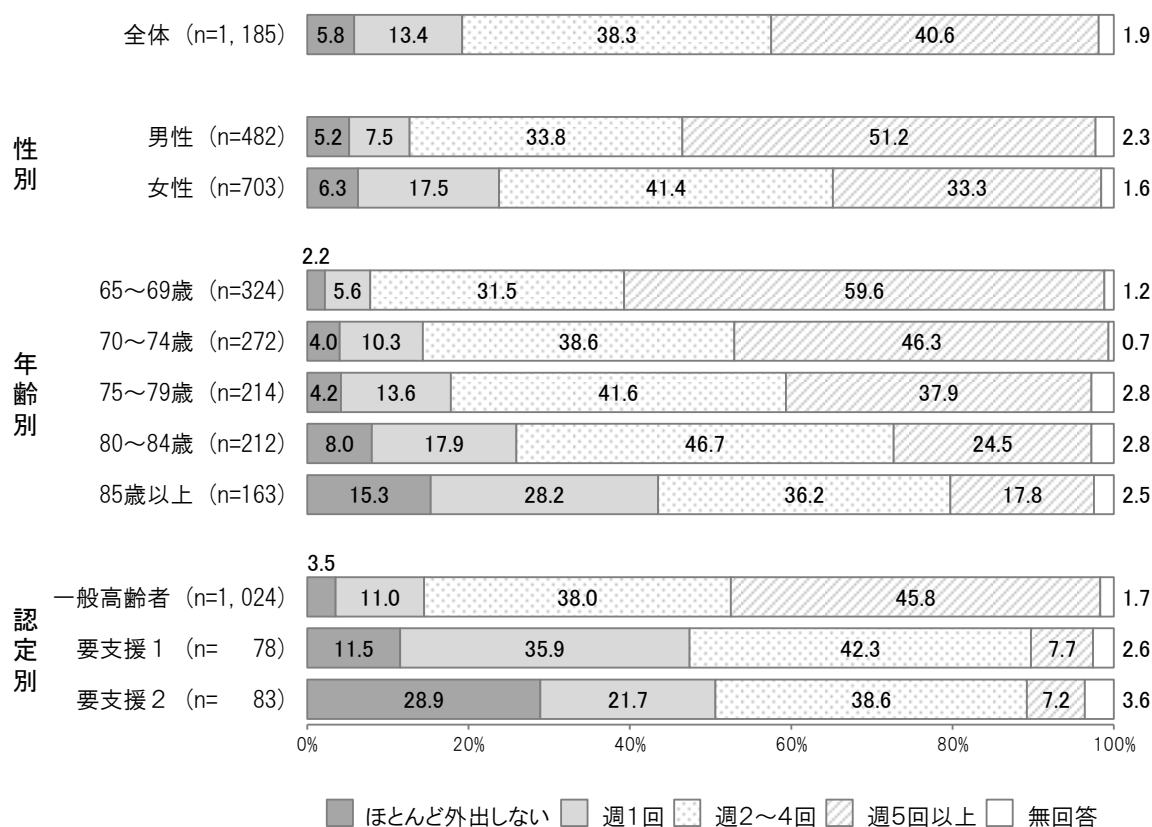
1週間あたりの外出頻度をたずねたところ、「週5回以上」が40.6%で最も高く、次いで「週2～4回」が38.3%、「週1回」が13.4%となっています。

性別にみると、男性は、「週5回以上」が51.2%で最も高くなっています。女性は「週2～4回」が41.4%で最も高く、また「週1回」(17.5%)が男性より10.0ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて外出頻度は少なくなり、85歳以上では「ほとんど外出しない」が15.3%、「週1回」が28.2%となっています。

認定別にみると、一般高齢者では「週5回以上」が45.8%、「週2～4回」が38.0%となっています。一方、要支援1と要支援2では「週5回以上」が10%未満となっており、要支援1では「週1回」(35.9%)、要支援2では「ほとんど外出しない」(28.9%)の割合が比較的高くなっています。

図 性別、年齢別、認定別 外出頻度



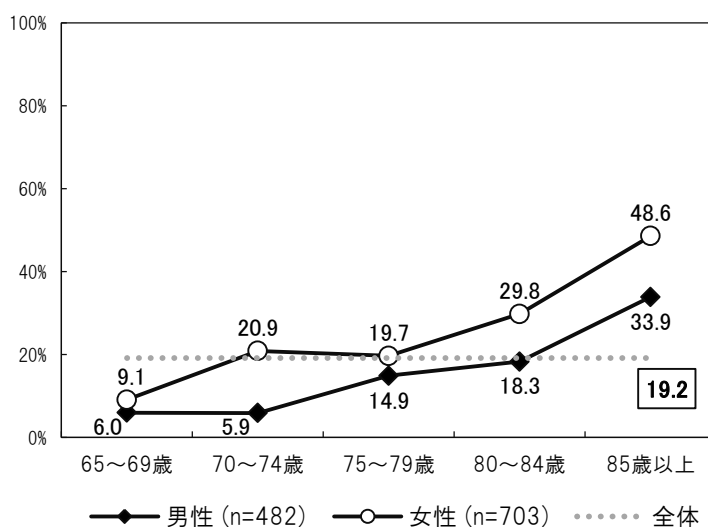
■閉じこもり傾向のある高齢者

問2の(6)の設問は閉じこもり傾向を問う設問となっており、(6)で「1. ほとんど外出しない」または「2. 週1回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者にあたります。

閉じこもり傾向のある高齢者の割合は全体では19.2%、性別では男性12.7%・女性23.8%と、女性の方が11.1ポイント高くなっています。

性年齢別にみると、いずれの年齢層でも男性より女性で該当割合が高く、女性の70～79歳で約20%、80～84歳で約30%、85歳以上で約50%が該当者となっています。男性は85歳以上では該当割合が33.9%となっています。

図 性年齢別 閉じこもり傾向のある高齢者



注)四捨五入の関係上、「1. ほとんど外出しない」と「2. 週1回」の回答割合の合計と、閉じこもりリスクの該当割合が一致しない場合があります。

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

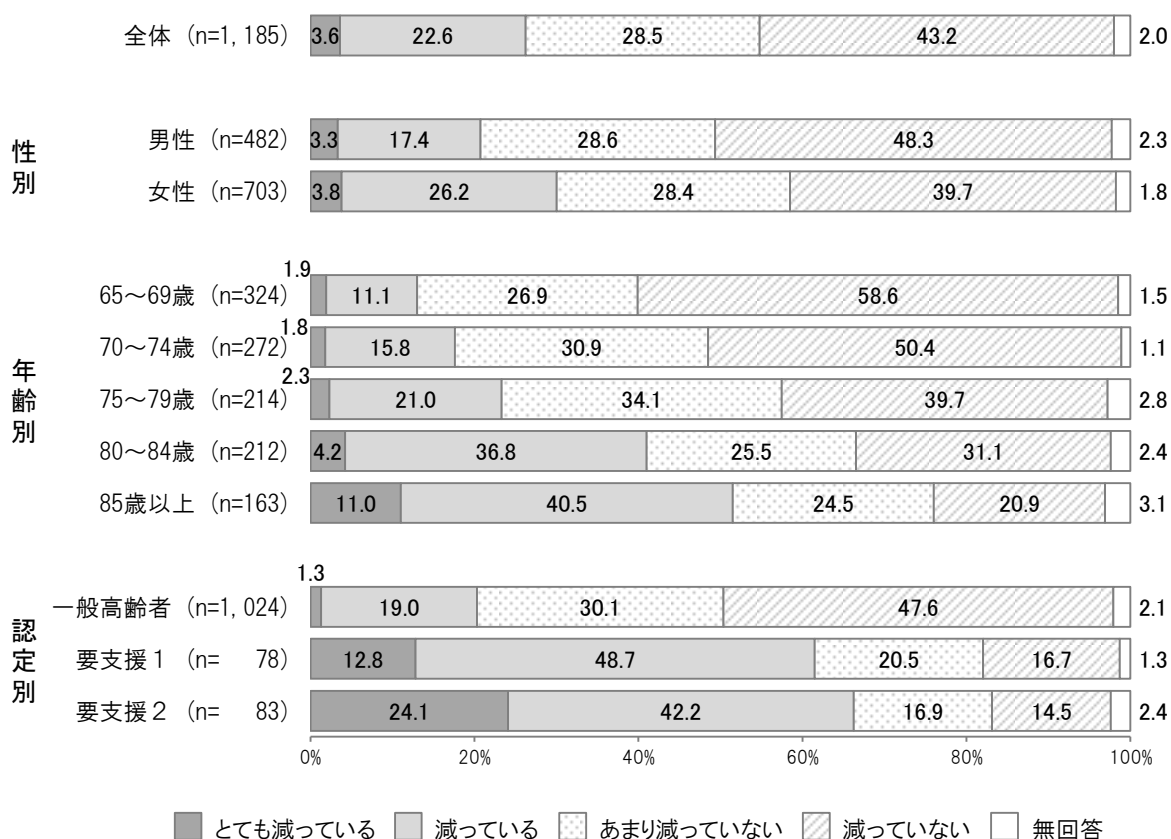
昨年と比べて外出の回数が減っているかたずねたところ、「減っていない」が43.2%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が28.5%となっており、合計した『減っていない』が71.7%となっています。一方、「とても減っている」は3.6%、「減っている」は22.6%で、合計した『減っている』が26.2%となっています。

性別にみると、『減っている』は男性20.7%・女性30.0%で、女性の方が9.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、『減っている』80～84歳で41.0%、85歳以上で51.5%となっています。

認定別にみると、要支援1と要支援2では『減っている』が60%以上と高くなっています。

図 性別、年齢別、認定別 昨年と比べて外出の回数が減っているか



問3 食べることについて

(1) 身長・体重

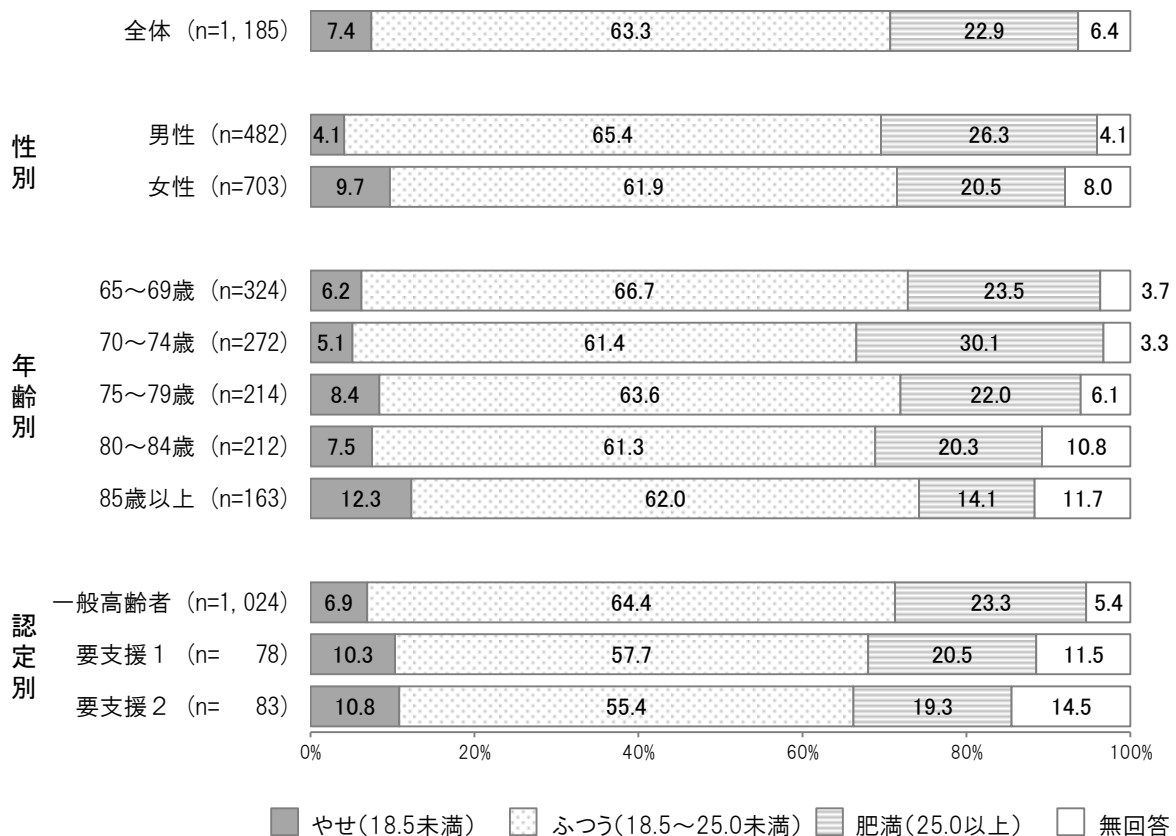
身長・体重から求めたBMIについてみると、「ふつう(18.5～25.0未満)」が63.3%を占めており、「肥満(25.0以上)」は22.9%、「やせ(18.5未満)」は7.4%となっています。

性別にみると、「肥満(25.0以上)」は、男性26.3%・女性20.5%で男性の方が5.8ポイント高く、「やせ(18.5未満)」は男性4.1%・女性9.7%で、女性の方が5.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、70～74歳は「肥満(25.0以上)」が30.1%と他の年齢層よりも高くなっています。85歳以上は「肥満(25.0以上)」が14.1%と低くなっていますが、「やせ(18.5未満)」は12.3%とやや高くなっています。

認定別にみると、要支援1と要支援2では「やせ(18.5未満)」が10%以上となっています。

図 性別、年齢別、認定別 BMI 値



(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

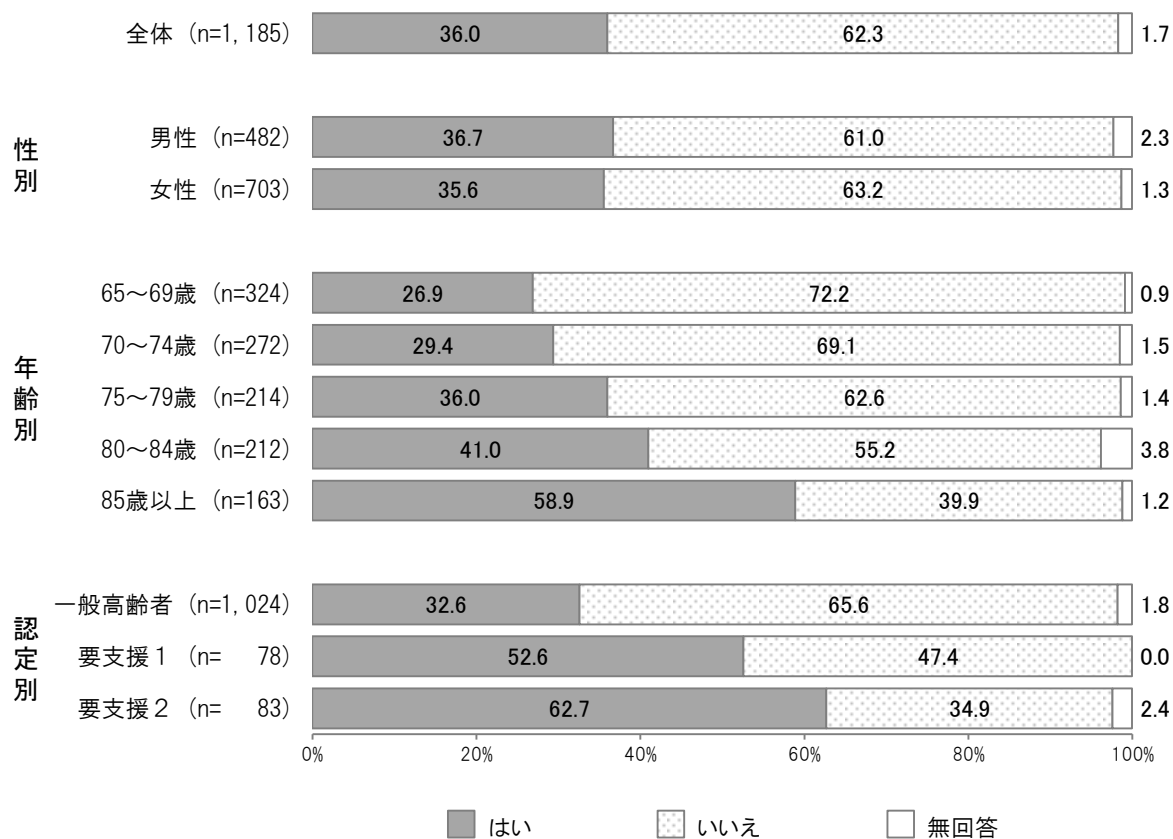
半年前に比べて固いものが食べにくくなったかたずねたところ、「はい」が36.0%、「いいえ」が62.3%となっています。

性別にみると、「はい」は男性36.7%・女性35.6%と、ほぼ同じ割合となっています。

年齢別にみると、「はい」は85歳以上で58.9%と高くなっています。

認定別にみると、「はい」は要支援1で52.6%、要支援2で62.7%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



(3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

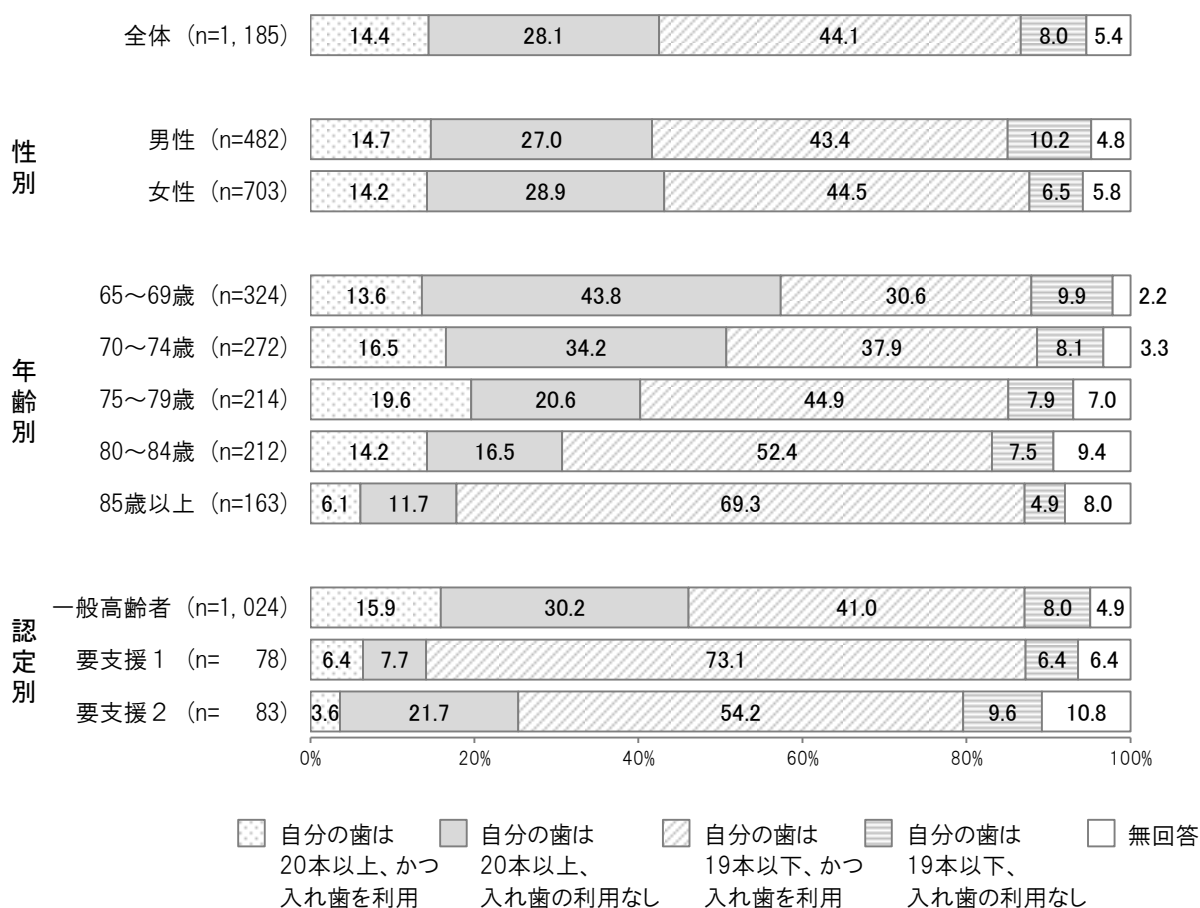
歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が44.1%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が28.1%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が14.4%となっており、自分の歯が20本以上ある人は合計42.5%、入れ歯を利用している人は合計58.5%となっています。

性別にみると、歯が19本以下の人は男性53.6%・女性51.0%で、男性の方がやや高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて自分の歯は19本以下の割合と入れ歯を利用している人の割合が高くなっており、85歳以上では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が69.3%となっています。

認定別にみると、要支援1では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が73.1%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 歯の数と入れ歯の利用状況



(4) どなたかと食事をとる機会がありますか

どなたかと食事をとる機会があるかたずねたところ、「毎日ある」が57.0%で最も高く、次いで「月に何度かある」が12.7%、「年に何度かある」が10.0%、「週に何度かある」が9.7%、「ほとんどない」が7.6%となっています。

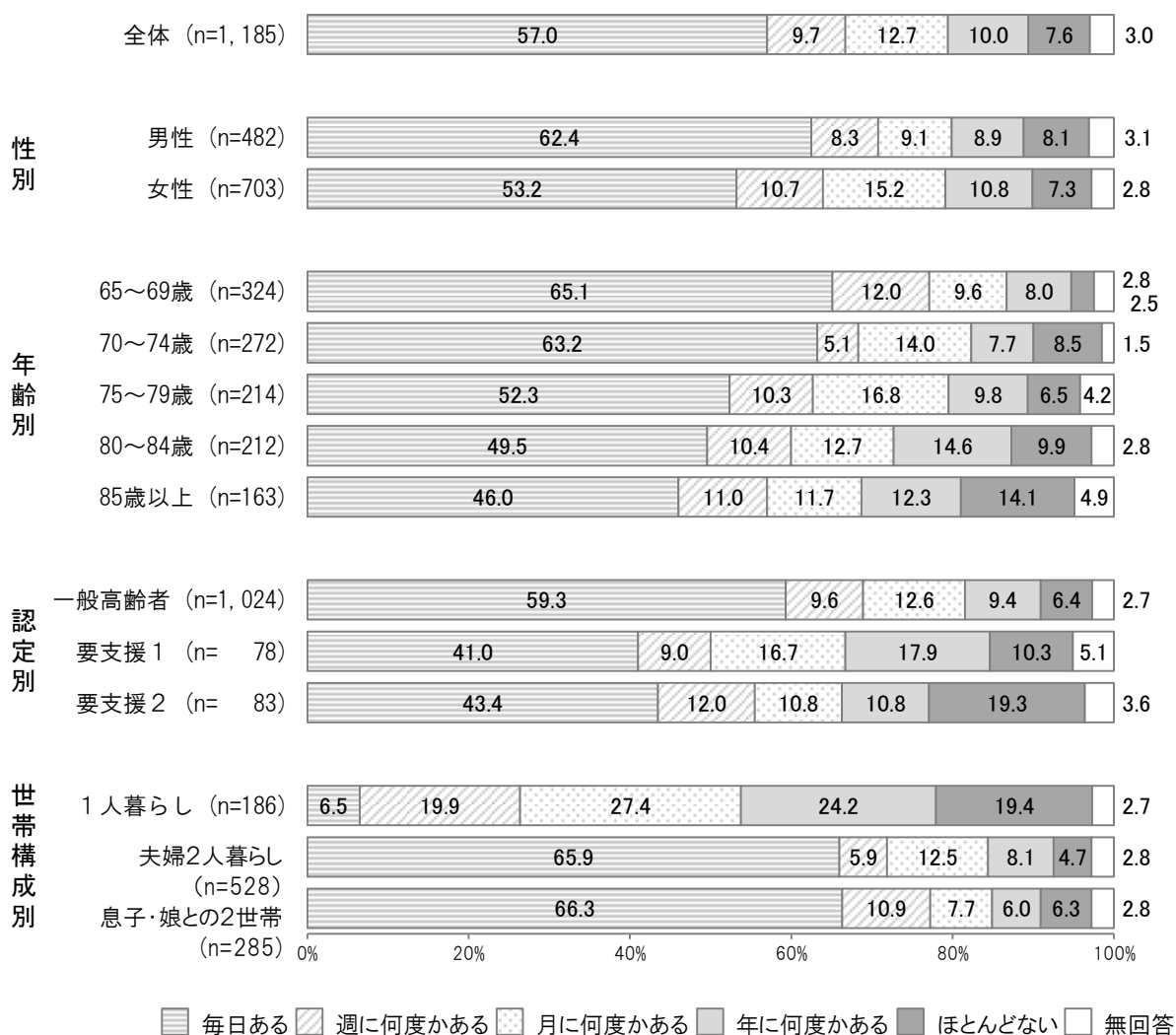
性別にみると、「毎日ある」は男性62.4%・女性53.2%で、男性の方が9.2ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「毎日ある」は65～74歳では60%以上となっていますが、75歳以上では約45～50%となっています。

認定別にみると、要支援1と要支援2は一般高齢者と比べて「毎日ある」の割合が低く、要支援1では「月に何度かある」が16.7%、「年に何度かある」が17.9%、要支援2では「ほとんどない」が19.3%となっています。

世帯構成別にみると、1人暮らしでは、「月に何度かある」が27.4%、「年に何度かある」が24.2%、「ほとんどない」が19.4%となっています。

図 性別、年齢別、認定別、世帯構成別 誰かと食事をとる機会はあるか



問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか

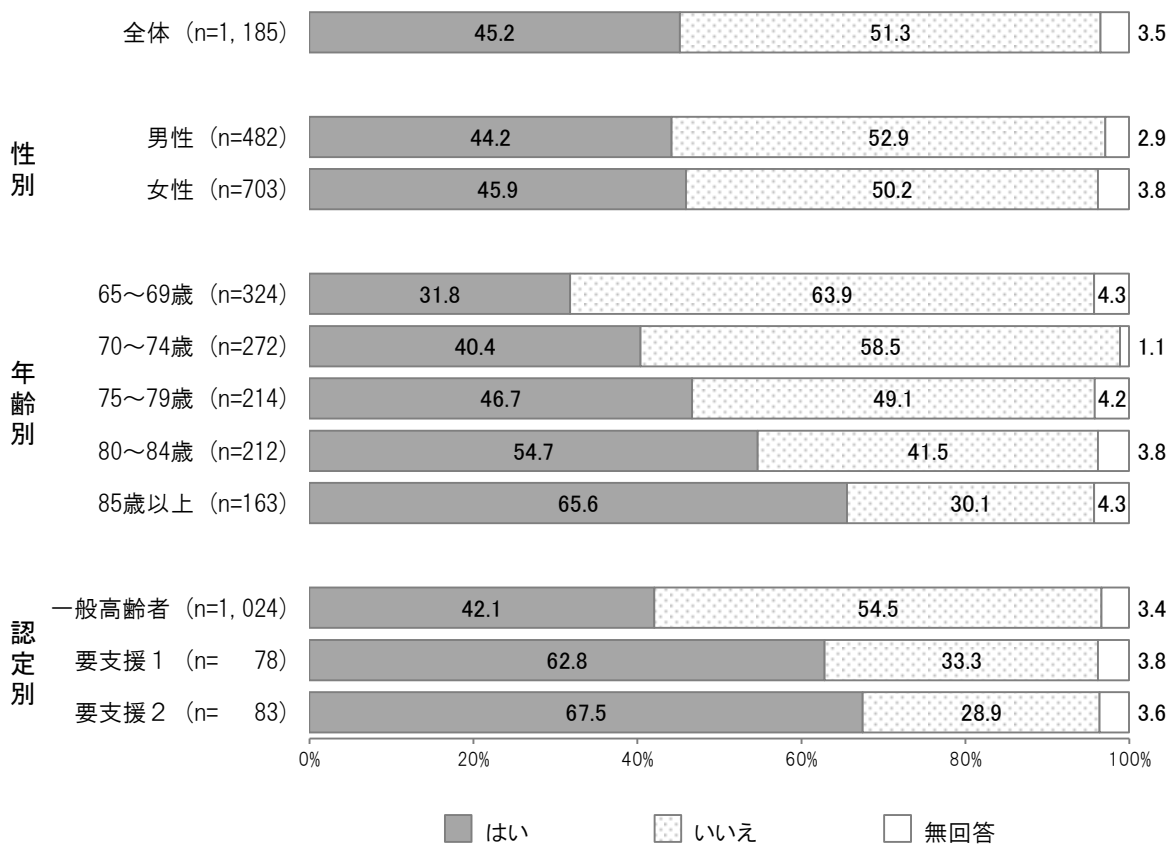
物忘れが多いと感じるかたずねたところ、「はい」が45.2%、「いいえ」が51.3%となっています。

性別にみると、「はい」は男性44.2%・女性45.9%で、女性の方がわずかに高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「はい」の割合も高くなっており、65～69歳で31.8%、85歳以上で65.6%となっています。

認定別にみると、「はい」の割合は、要支援1で62.8%、要支援2で67.5%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 物忘れが多いと感じるか



(2)～(6) 手段的自立度 (IADL) に関連した活動

1人での外出、食品・日用品の買物、食事の用意、請求書の支払い、預貯金の出し入れなどの活動をできているかたずねたところ、バスや電車を使った1人での外出と食事の用意は「できない」が10%を超えています。また、食事の用意は「できるけどしていない」が20%を超えています。

性別にみると、バスや電車を使った1人での外出は女性で「できるけどしていない」と「できない」の割合が高く、食品・日用品の買物、食事の用意、請求書の支払い、預貯金の出し入れは、男性で「できるけどしていない」の割合が高くなっています。

図 手段的自立度(IADL)に関連した活動

(n=1,185)

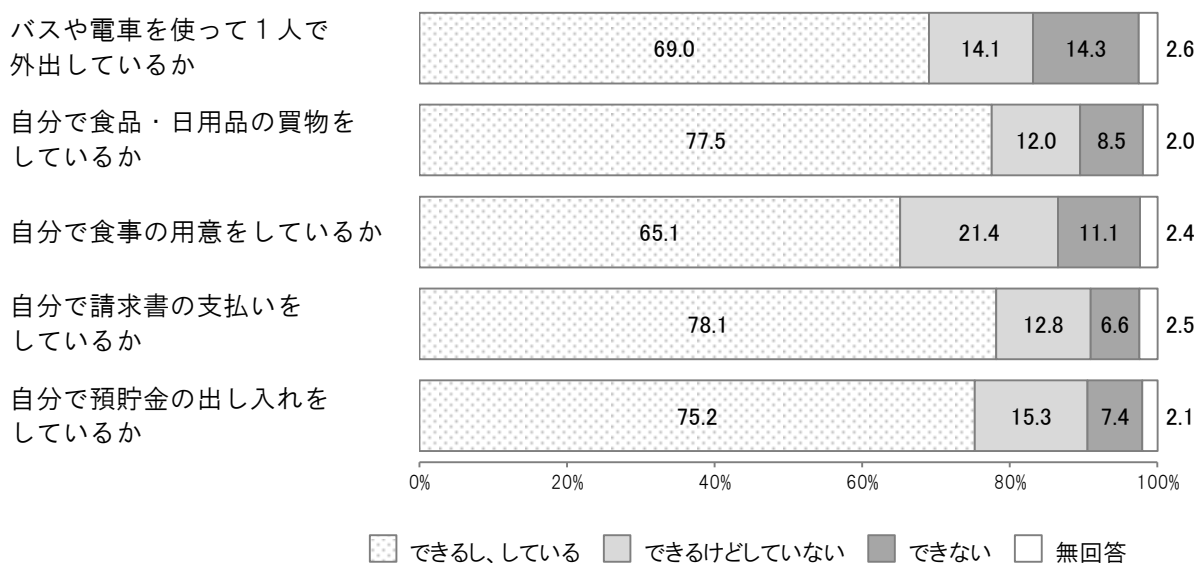
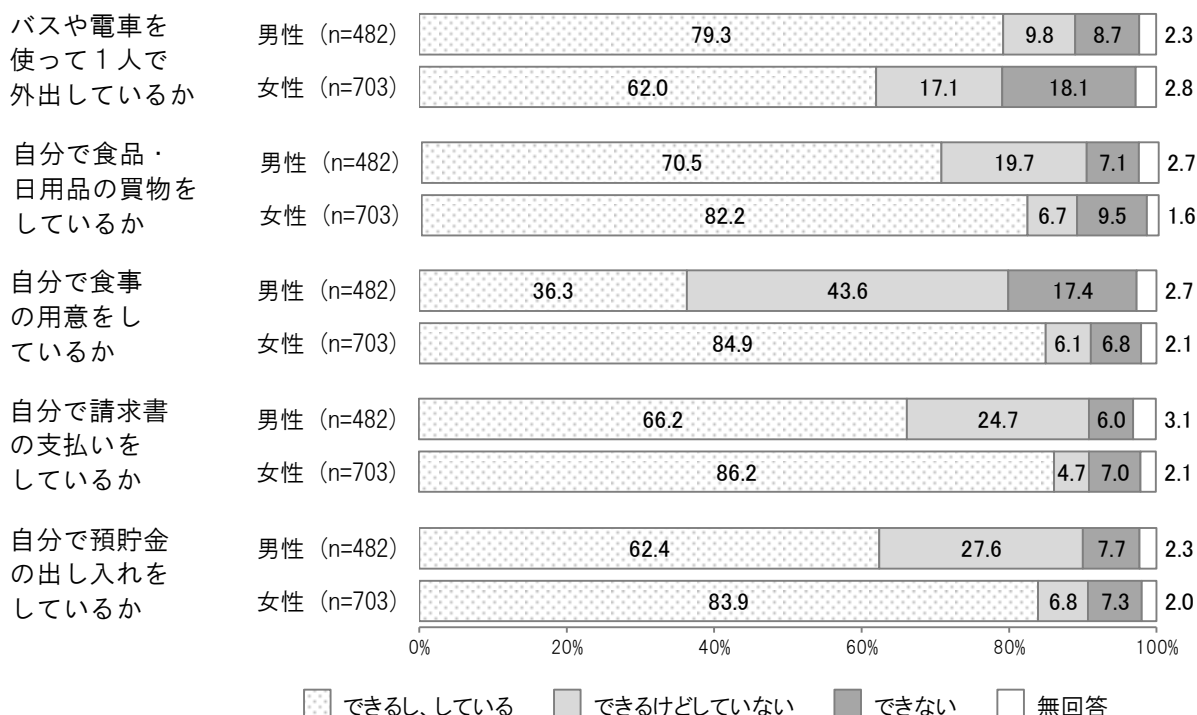


図 性別 手段的自立度(IADL)に関連した活動



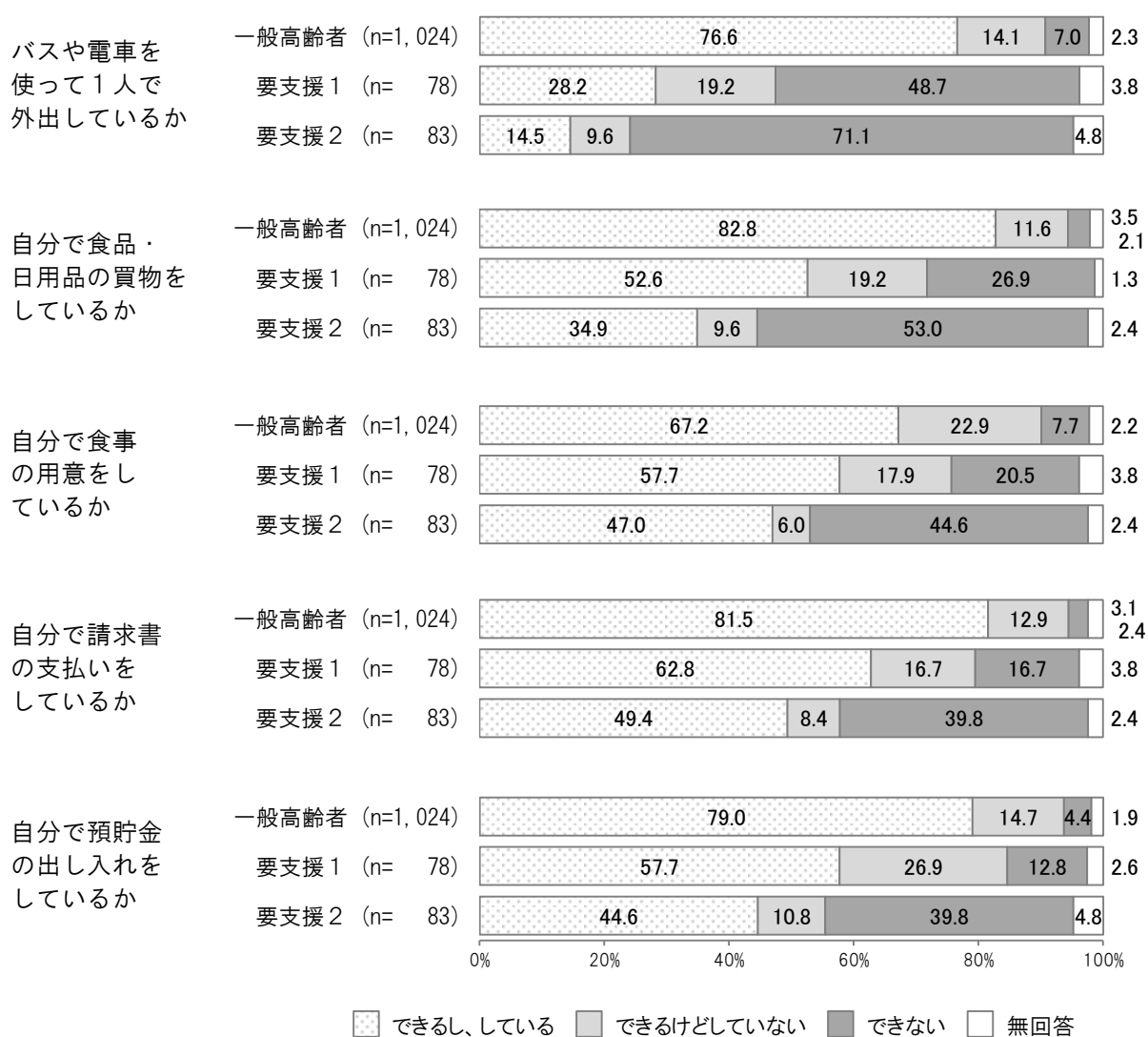
認定別にみると、バスや電車などを使って1人で外出しているかは、「できない」が要支援1で48.7%、要支援2で71.1%と高くなっています。

自分で食品・日用品の買物をしているかは、一般高齢者では「できる」が82.8%と高くなっていますが、要支援2では「できる」が34.9%にとどまっています。

自分で食事の用意をしているかは、一般高齢者で「できるけどしていない」が22.9%となっており、他の項目と比べて「できるし、している」の割合が一般高齢者でも低くなっています。

、自分で請求書の支払いをしているか、自分で預貯金の出し入れをしているかについては、一般高齢者では「できるし、している」が約80%、要支援2では「できるし、している」が40%台となっています。

図 認定別 手段的自立度(IADL)に関連した活動



■手段的自立度 (IADL)

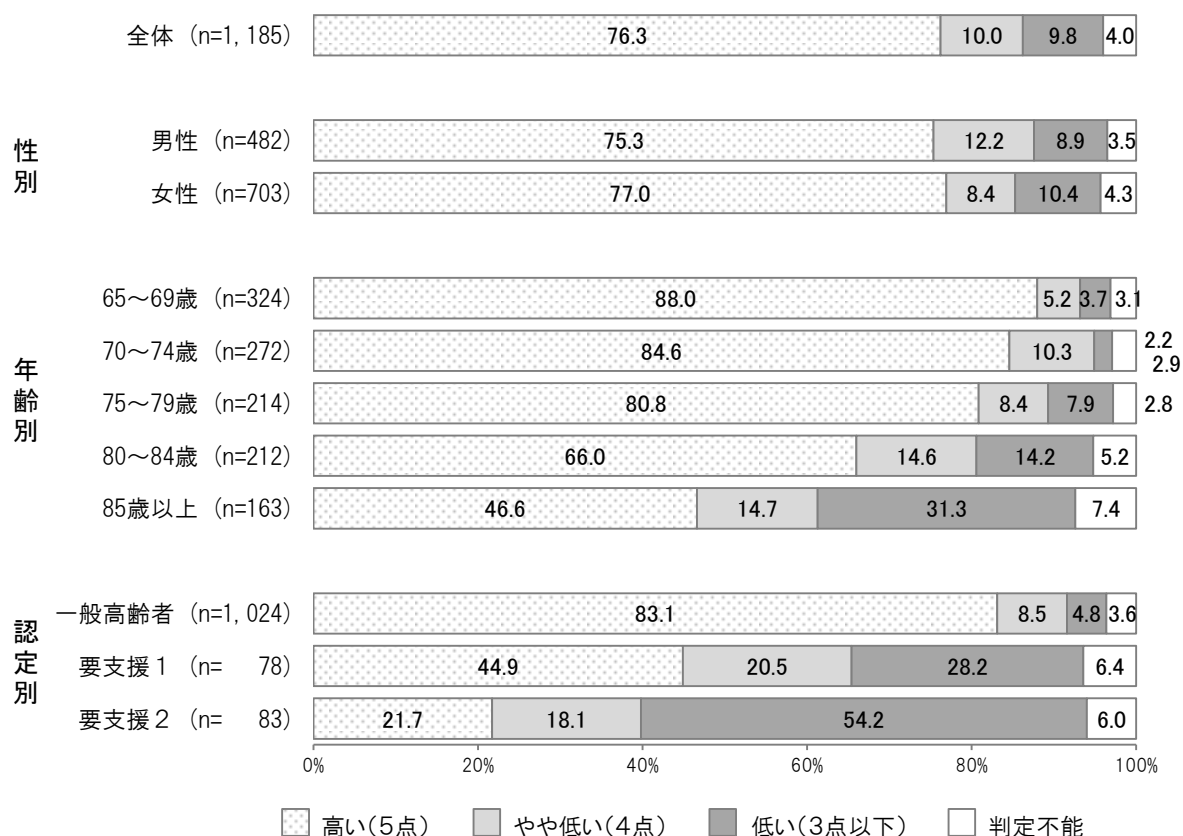
問4の(2)～(6)の設問は、老研式活動能力指標のうち手段的自立度(IADL)についての設問となっており、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点の5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価しています。

評価結果をみると、全体では19.8%、性別では男性21.1%・女性18.8%が4点以下の低下者となっています。

年齢別にみると、80歳以上で低下者の割合が高くなっており、80～84歳では「やや低い(4点)」が14.6%、「低い(3点以下)」が14.2%、85歳以上では「やや低い(4点)」が14.7%、「低い(3点以下)」が31.3%となっています。

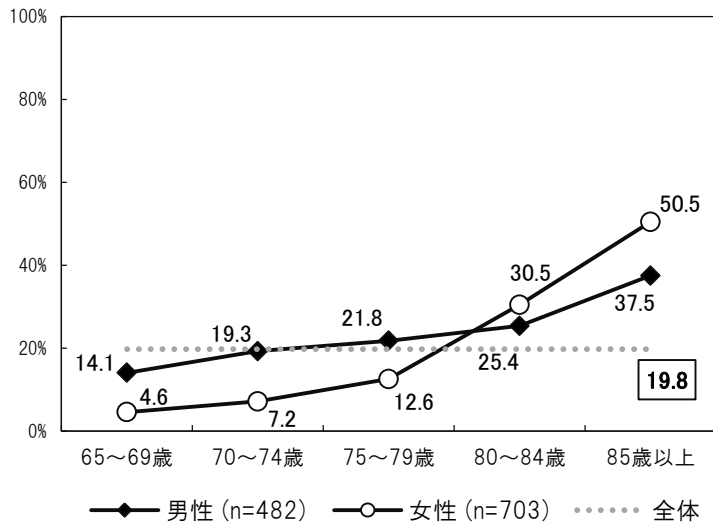
認定別にみると、一般高齢者では「高い(5点)」が83.1%を占めていますが、要支援1では「やや低い(4点)」が20.5%、「低い(3点以下)」が28.2%、要支援2では「やや低い(4点)」が18.1%、「低い(3点以下)」が54.2%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 IADL が低下している高齢者



性年齢別に4点以下の低下者の割合をみると、80歳未満の該当割合は男性が女性より高くなっていますが、80歳以上の該当割合は女性が男性より高くなっています。

図 性年齢別 IADL が低下している高齢者



問5 地域での活動について

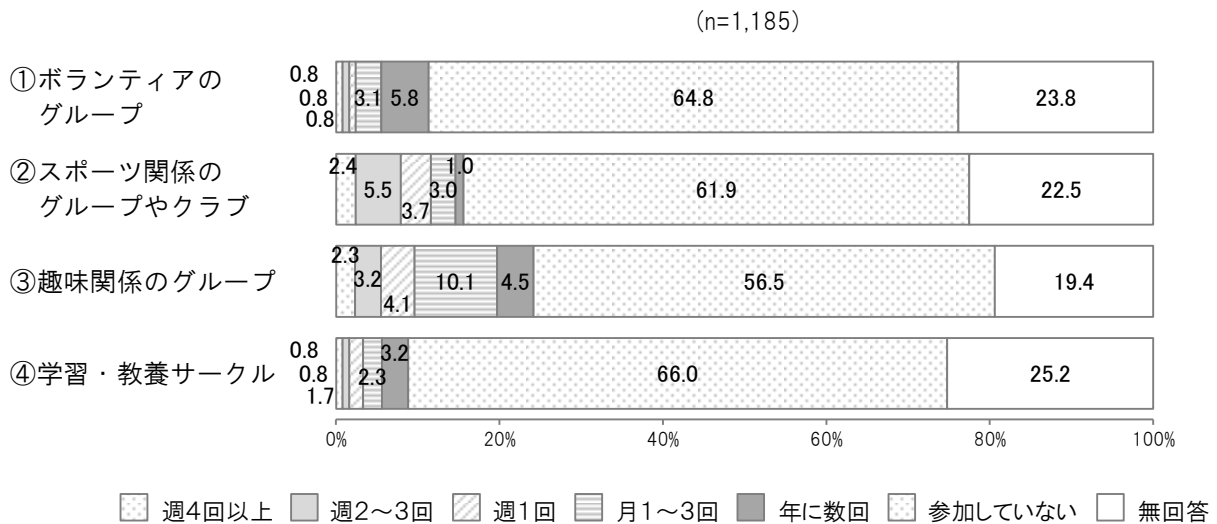
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（老人クラブ・町内会・自治会の活動をのぞきます）

※① - ④それぞれに回答してください

地域活動などへの参加状況をたずねたところ、『参加している』（「週4回以上」～「年に数回」の合計）の割合は、高い順に「③趣味関係のグループ」で24.2%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」で15.6%、「①ボランティアのグループ」で11.3%、「④学習・教養サークル」で8.8%となっています。

参加頻度でみると、「③趣味関係のグループ」は「月1～3回」が10.1%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」は「週2～3回」が5.5%、「①ボランティアのグループ」は「年に数回」が5.8%となっています。

図 地域活動などへの参加状況



(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

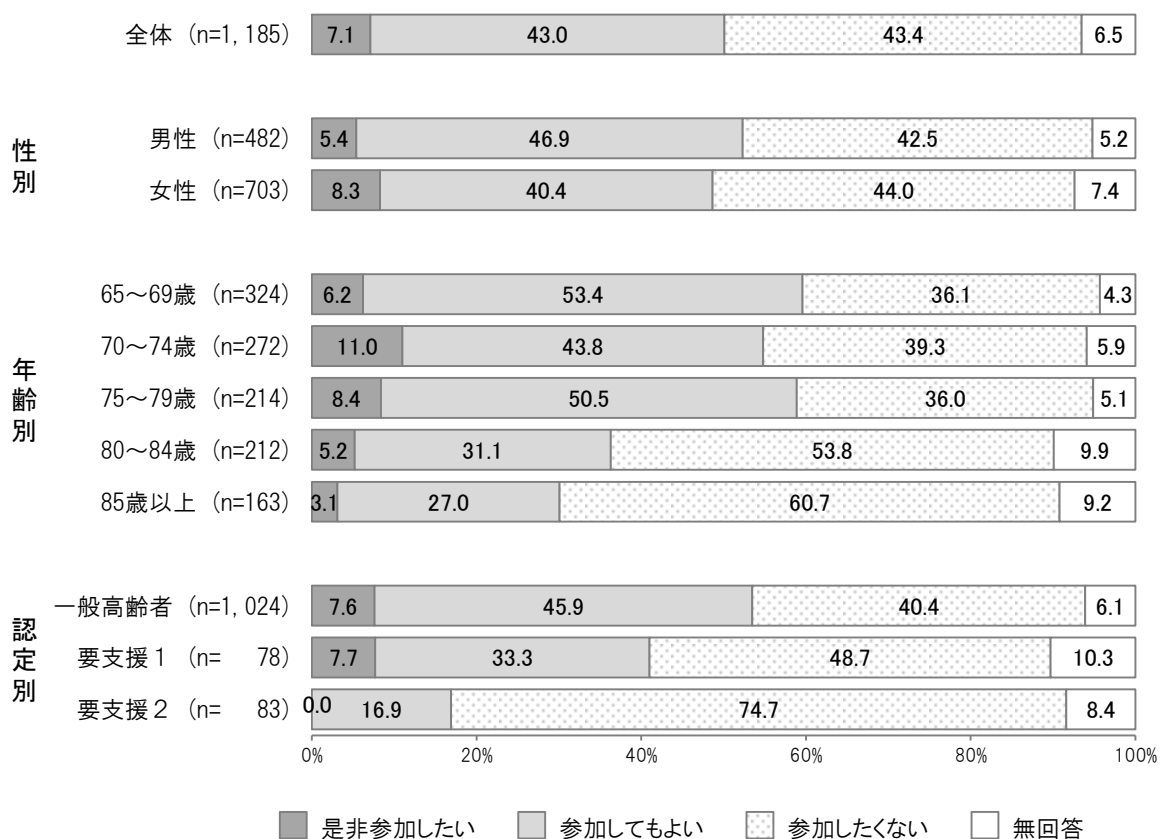
参加者としての地域活動への参加意向についてたずねたところ、「是非参加したい」が7.1%、「参加してもよい」が43.0%と、参加意向がある人が合計50.1%となっており、「参加したくない」の43.4%を上回っています。

性別にみると、「是非参加したい」は男性5.4%・女性8.3%で女性の方がやや高く、「参加してもよい」は男性46.9%・女性40.4%で男性の方が6.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、65～79歳では、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計が約50～60%となっており、80歳以上で「参加したくない」の割合が高くなっています。

認定別にみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の合計が一般高齢者で53.5%、要支援1で41.0%、要支援2で16.9%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 地域活動への参加意向(参加者として)



(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

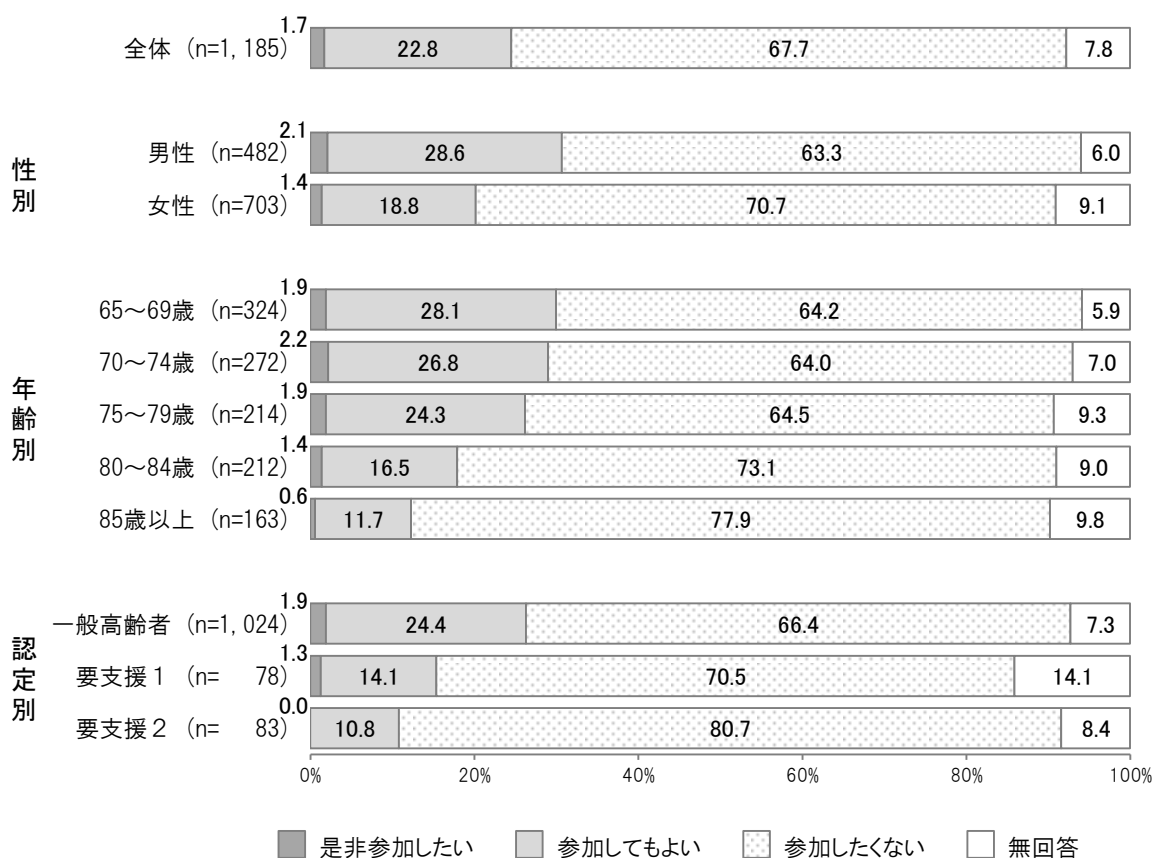
企画・運営（お世話役）としての地域活動への参加意向についてたずねたところ、「参加したくない」が67.7%を占めており、「参加してもよい」は22.8%、「是非参加したい」は1.7%となっています。

性別にみると、「参加してもよい」は男性28.6%・女性18.8%で、男性の方が9.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「参加してもよい」は65～79歳で20%以上となっています。

認定別にみると、「参加してもよい」は一般高齢者で24.4%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 地域活動への参加意向(企画・運営として)



問6 たすけあいについて

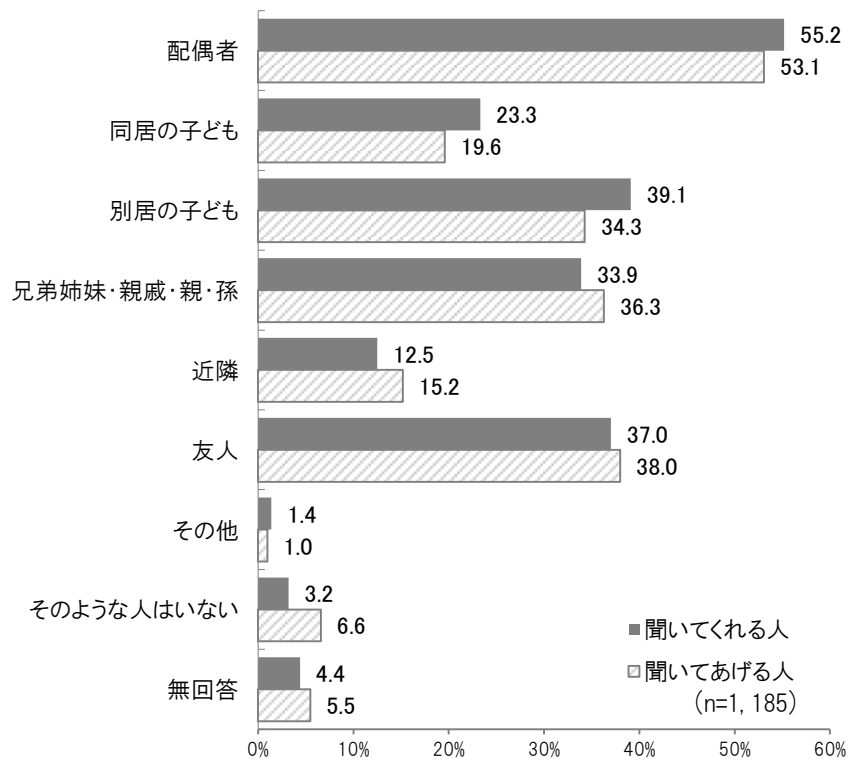
(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人 (いくつでも)

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人 (いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人と聞いてあげる人についてたずねたところ、聞いてくれる人、聞いてあげる人ともに「配偶者」が50%台で最も高くなっています。

「配偶者」に次いで、聞いてくれる人は「別居の子ども」(39.1%)、「友人」(37.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(33.9%)の順に、聞いてあげる人は「友人」(38.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(36.3%)、「別居の子ども」(34.3%)の順に高くなっています。

図 心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人

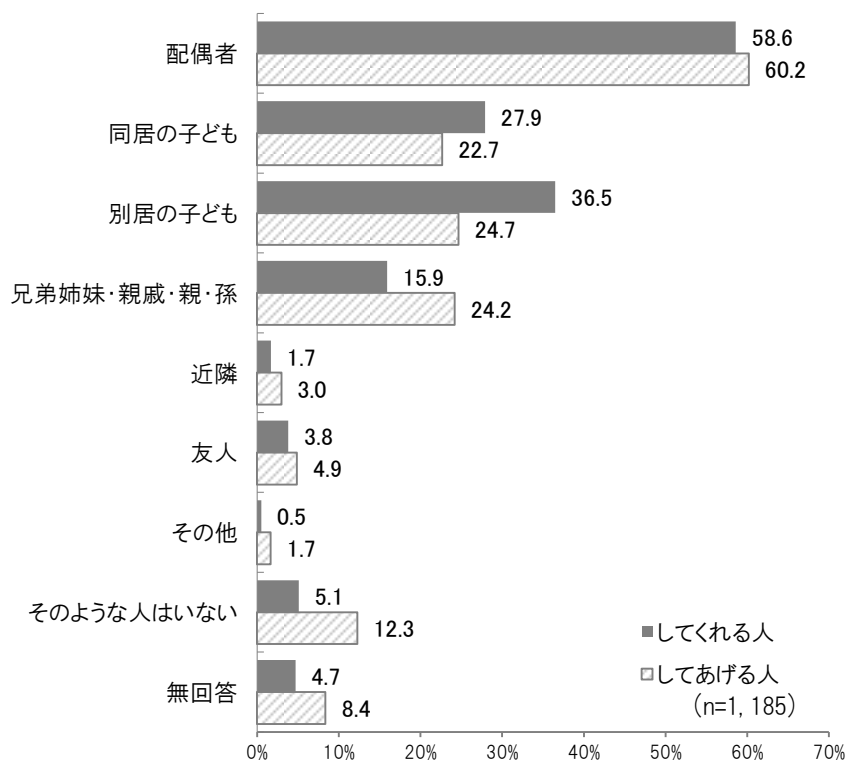


(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）
 (4) 反対に、看病や世話をしあげる人（いくつでも）

看病や世話をしてくれる人、しあげる人についてたずねたところ、してくれる人は、「配偶者」が58.6%で最も高く、次いで「別居の子ども」が36.5%、「同居の子ども」が27.9%となっています。

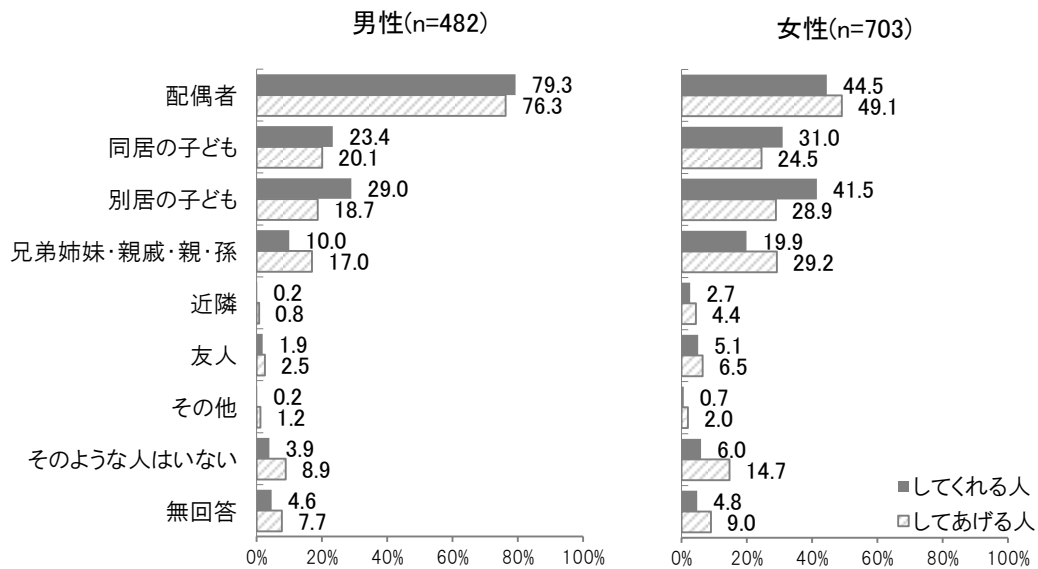
しあげる人は、「配偶者」が60.2%で最も高く、次いで「別居の子ども」が24.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が24.2%、「同居の子ども」が22.7%となっています。

図 看病や世話をしてくれる人、しあげる人



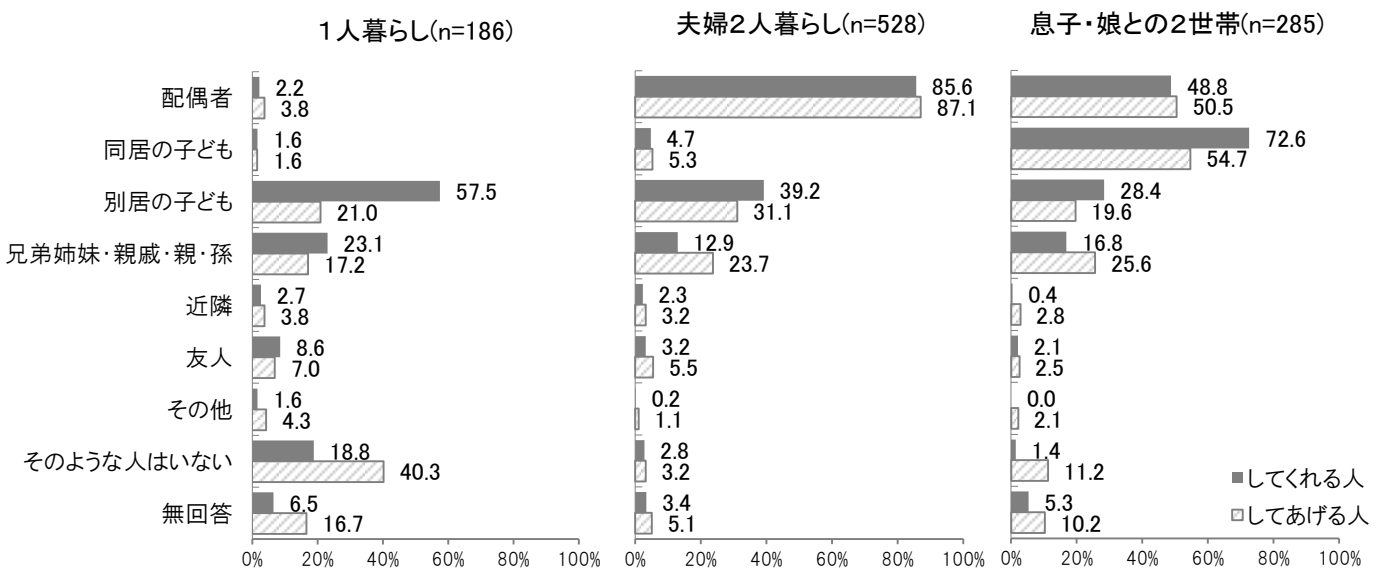
性別にみると、男性は、看病や世話をしてくれる人、してあげる人ともに「配偶者」の割合が70%以上と高くなっています。女性は、看病や世話をしてくれる人は「配偶者」と「別居の子ども」が40%以上、してあげる人は「配偶者」が49.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が29.2%、「別居の子ども」が28.9%、「同居の子ども」が24.5%となっています。

図 性別 看病や世話をしてくれる人、してあげる人



家族構成別に見ると、1人暮らしでは、してくれる人は「別居の子ども」が57.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が23.1%、「そのような人はいない」が18.8%となっています。してあげる人は「そのような人はいない」が40.3%となっています。夫婦2人暮らしでは「配偶者」がしてくれる人、してあげる人ともに80%以上と高くなっています。息子・娘との2世帯ではしてくれる人は「同居の子ども」が72.6%、「配偶者」が48.8%、してあげる人は「同居の子ども」が54.7%、「配偶者」が50.5%となっています。

図 家族構成別 看病や世話をしてくれる人、してあげる人



問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

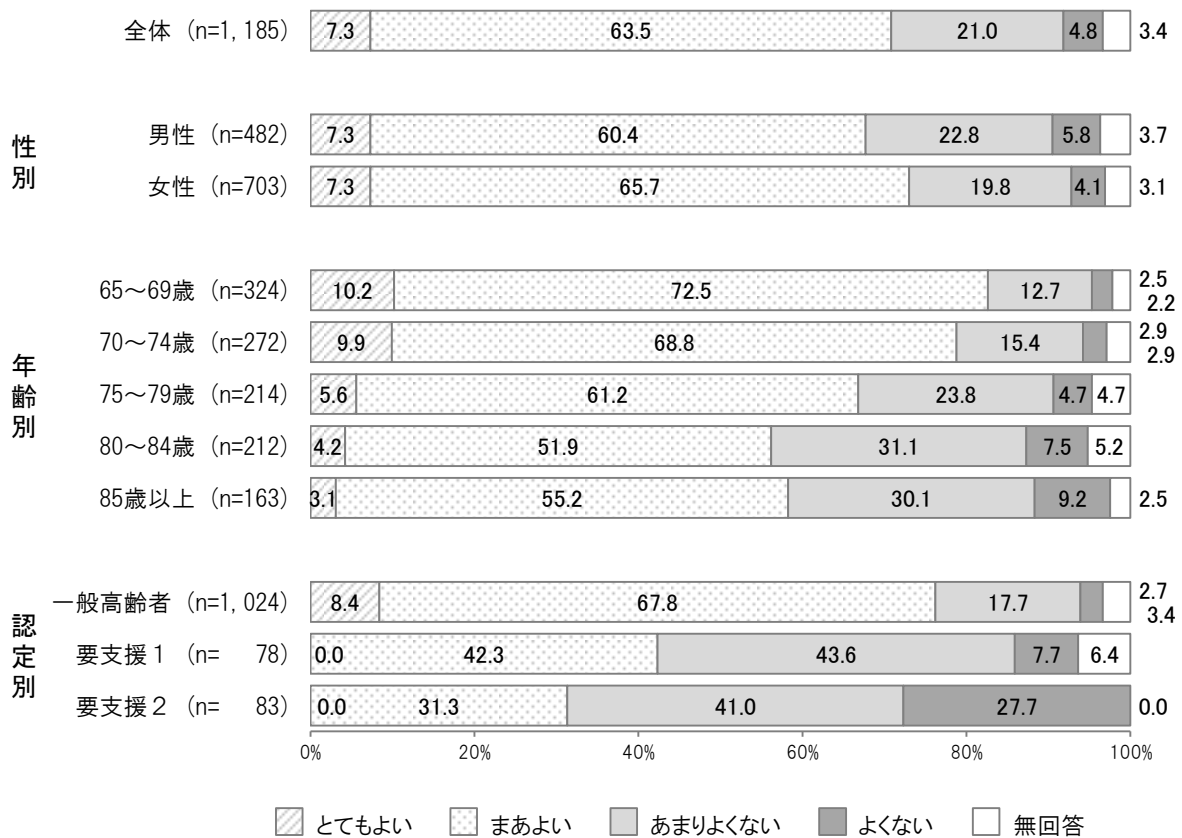
自分自身の健康状態についてたずねたところ、「とてもよい」が7.3%、「まあよい」が63.5%となっており、合計した『よい』が70.8%となっています。一方、「あまりよくない」は21.0%、「よくない」は4.8%となっており、合計した『よくない』は25.8%となっています。

性別にみると、『よい』は男性67.7%・女性73.0%と女性の方が5.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、65～74歳では『よい』が約80%を占めていますが、75～79歳では『よくない』が約30%、80歳以上では『よくない』が約40%となっています。

認定別にみると、要支援1では『よくない』が51.3%、要支援2では『よくない』が68.7%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 主観的健康観

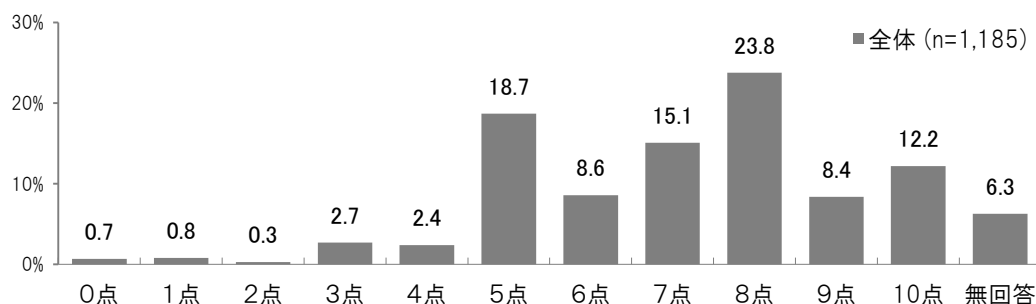


(2) あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在どの程度幸せに感じているか10点満点でたずねたところ、「8点」が23.8%で最も高く、次いで「5点」が18.7%、「7点」が15.1%と、5点以上の合計が86.8%を占め、平均は7.02点となっています。

図 主観的幸福感



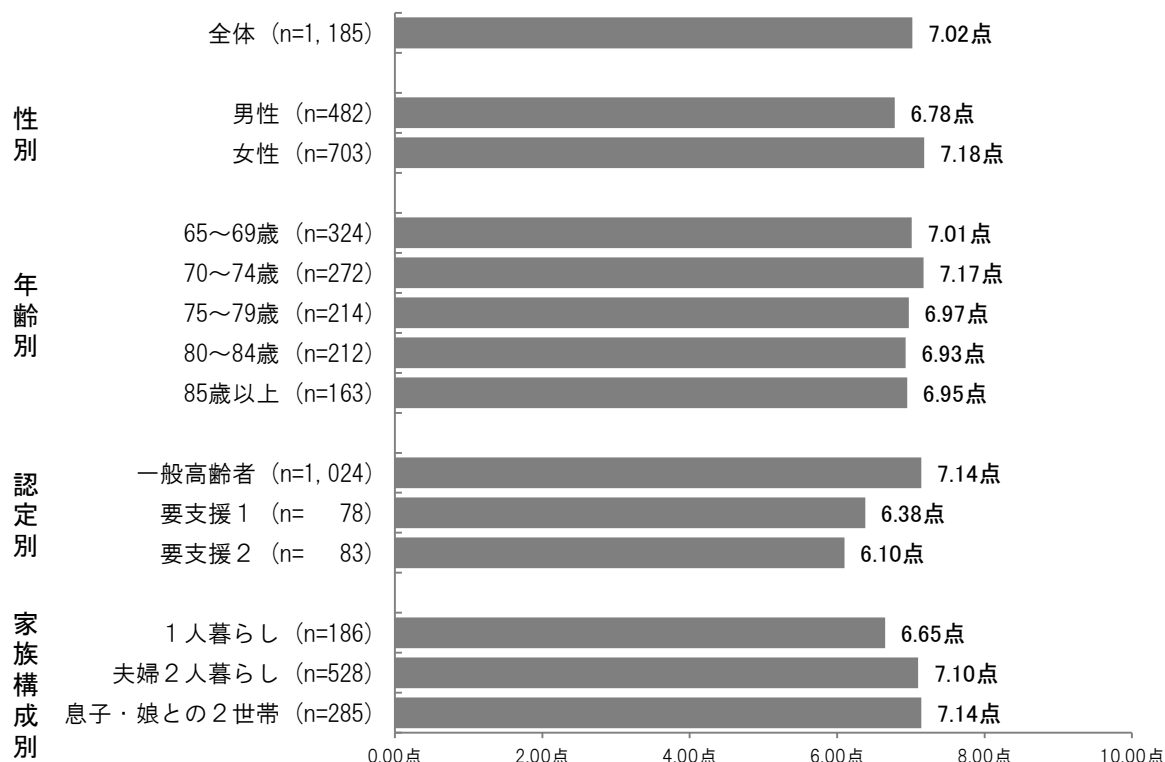
平均点数を性別にみると、男性は6.78点、女性は7.18点と、女性の点数がやや高くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも7点前後となっており、70～74歳で最も高い7.17点、80～84歳で最も低い6.93点となっています。

認定別にみると、一般高齢者では7.14点、要支援1では6.38点、要支援2では6.10点と、要支援の点数が低くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らしは6.65点と、やや点数が低くなっています。

図 性別、年齢別、認定別、家族構成別 主観的幸福感



(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

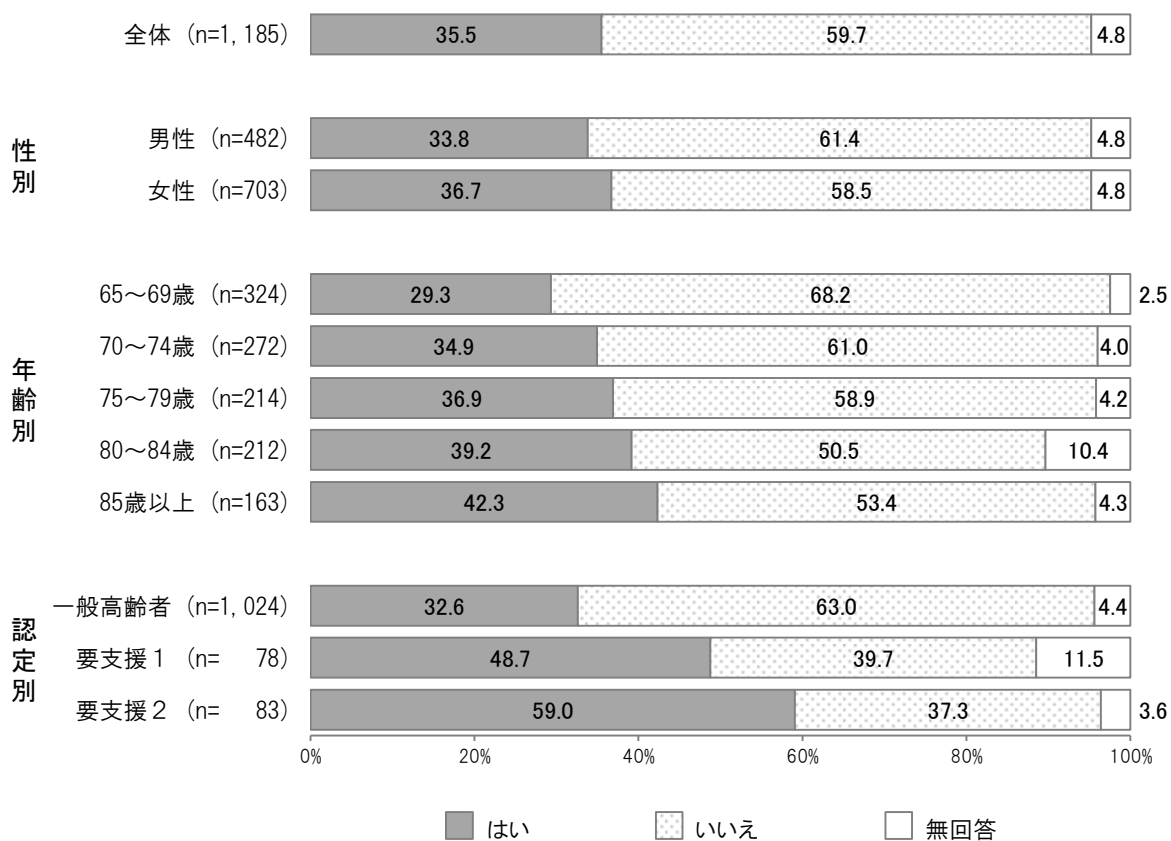
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるかたずねたところ、「はい」が35.5%、「いいえ」が59.7%となっています。

性別にみると、「はい」は男性33.8%・女性36.7%で、女性の方が2.9ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「はい」の割合も高くなり、85歳以上では42.3%となっています。

認定別にみると、「はい」は一般高齢者で32.6%、要支援1で48.7%、要支援2で59.0%となっています。

図 性別、年齢別、認定別 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあるか



(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

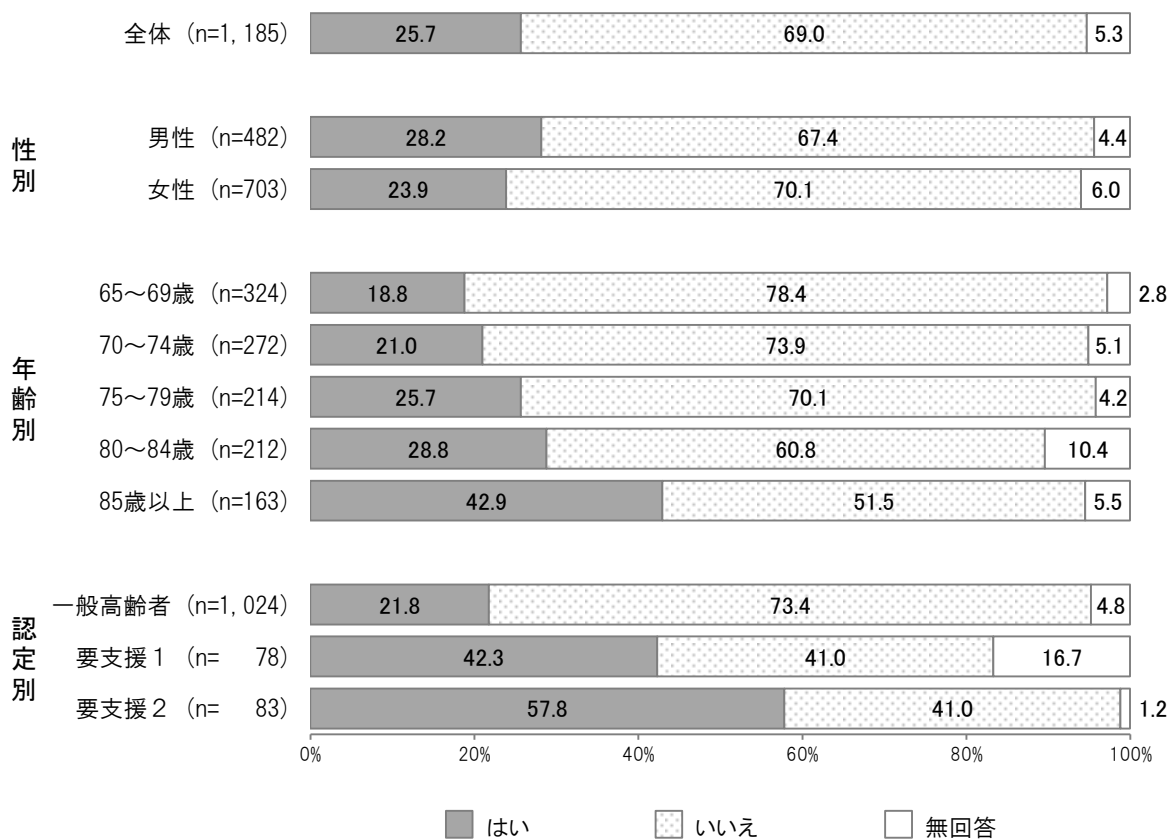
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるかたずねたところ、「はい」が25.7%、「いいえ」が69.0%となっています。

性別にみると、「はい」は男性28.2%・女性23.9%と、男性の方が4.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、85歳以上では「はい」が42.9%と高くなっています。

認定別にみると、「はい」は要支援1で42.3%、要支援2で57.8%と高くなっています。

図 性別、年齢別、認定別 事に対して興味がわかない、楽しめないことがあるか



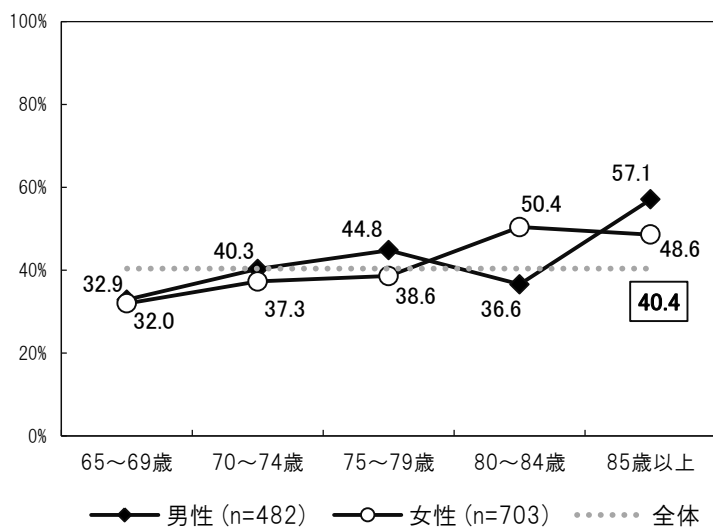
■うつ傾向の高齢者

問7の(3)、(4)の2設問は、うつ傾向を問う設問となっており、この2設問のいずれかに該当する場合は、うつ傾向の高齢者にあたります。

うつ傾向の高齢者の割合は、全体では40.4%、性別では男性40.2%・女性40.5%となっています。性年齢別では、女性の80歳以上と、男性の85歳以上で該当者が約50~60%と高くなっています。

設問	該当する選択肢
(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
(4)この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

図 性年齢別 うつ傾向の高齢者



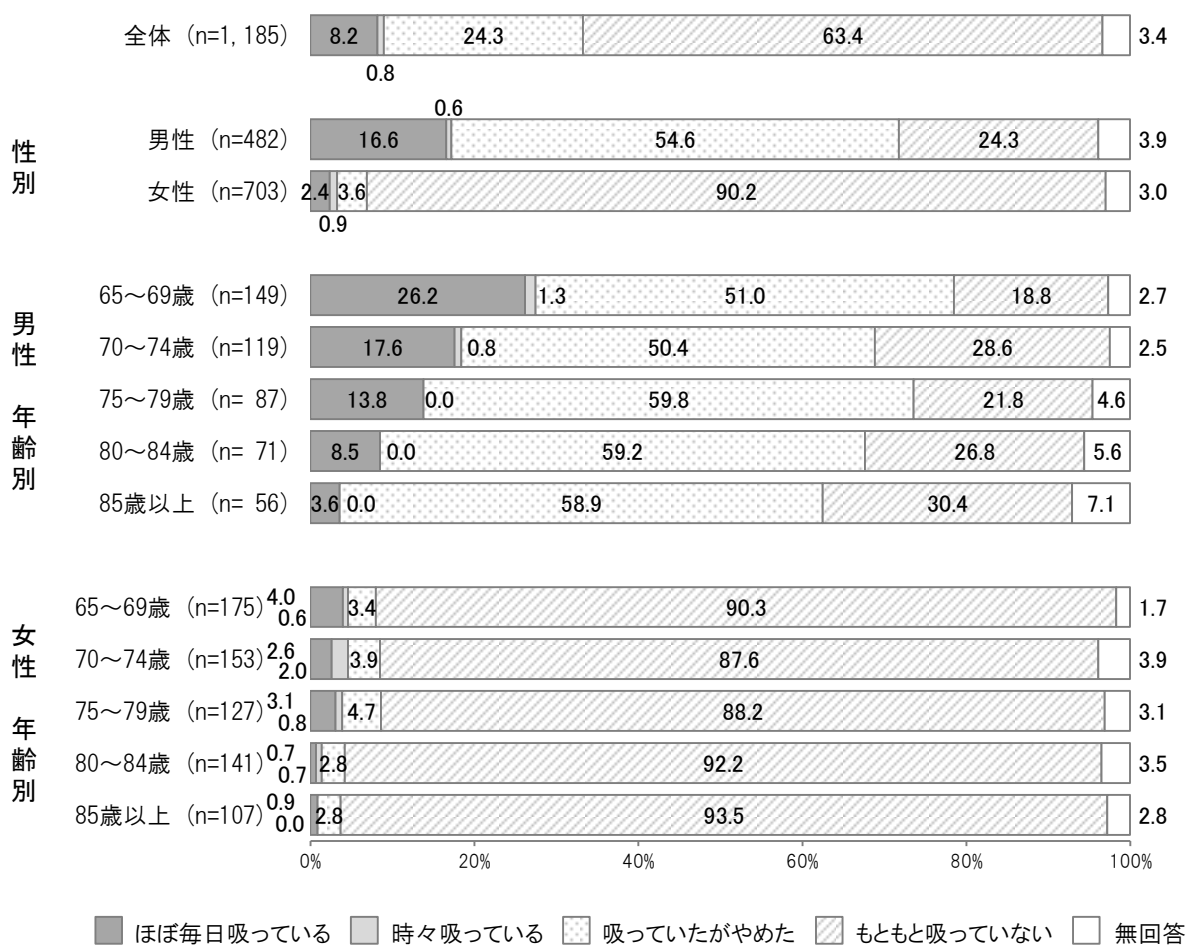
(5) タバコは吸っていますか

喫煙頻度についてたずねたところ、「もともと吸っていない」が63.4%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が24.3%、「ほぼ毎日吸っている」が8.2%となっています。

性別にみると、男性は、「吸っていたがやめた」が54.6%、「もともと吸っていない」が24.3%、「ほぼ毎日吸っている」が16.6%となっています。女性は、「もともと吸っていない」が90.2%を占めています。

性年齢別にみると、「ほぼ毎日吸っている」が男性の65～69歳では26.2%、70～74歳では17.6%、75～79歳では13.8%となっています。

図 性別、性年齢別 喫煙頻度

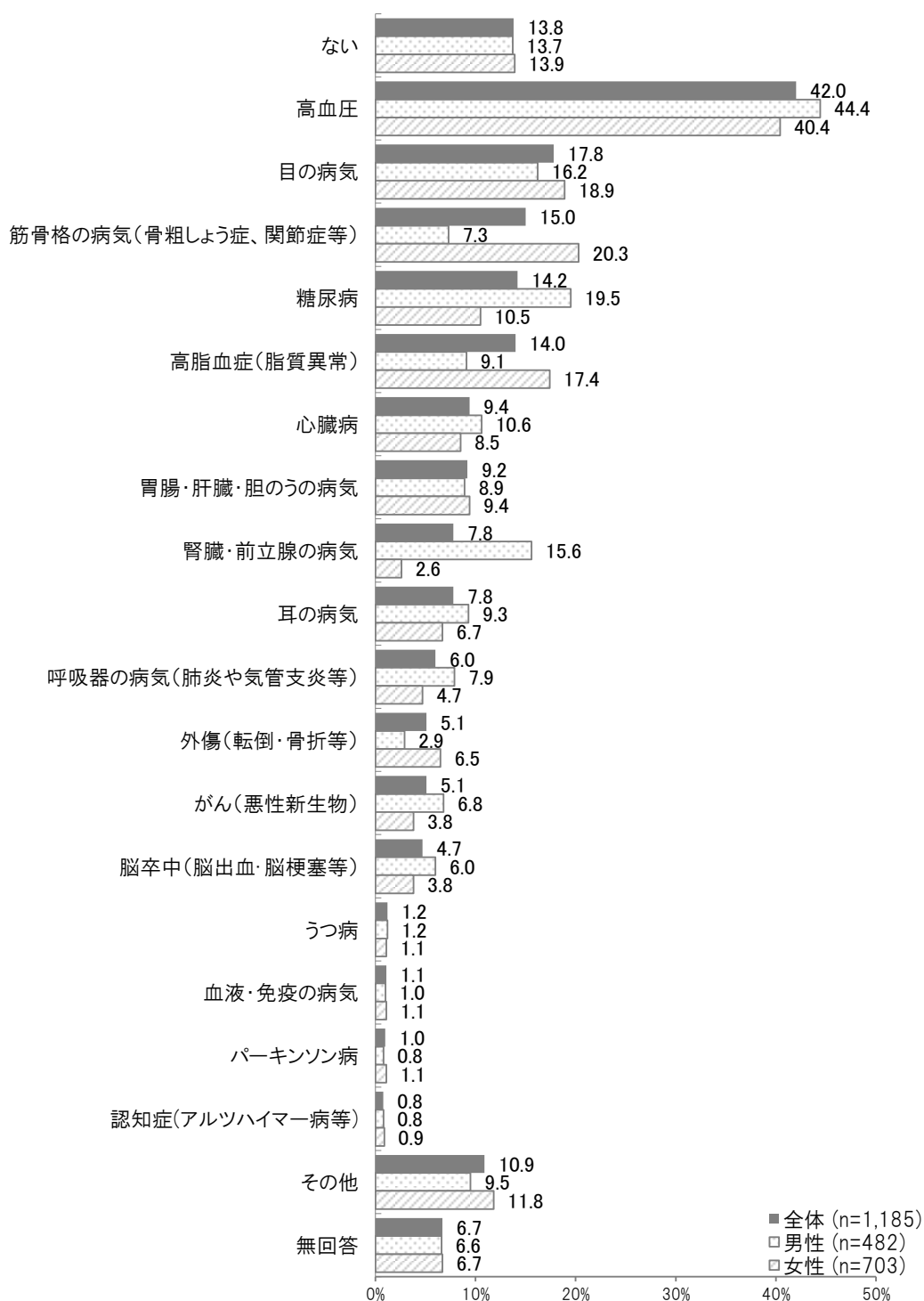


(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、「高血圧」が42.0%で最も高く、次いで「目の病気」が17.8%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が15.0%、「糖尿病」が14.2%、「高脂血症(脂質異常)」が14.0%となっており、「ない」は13.8%となっています。

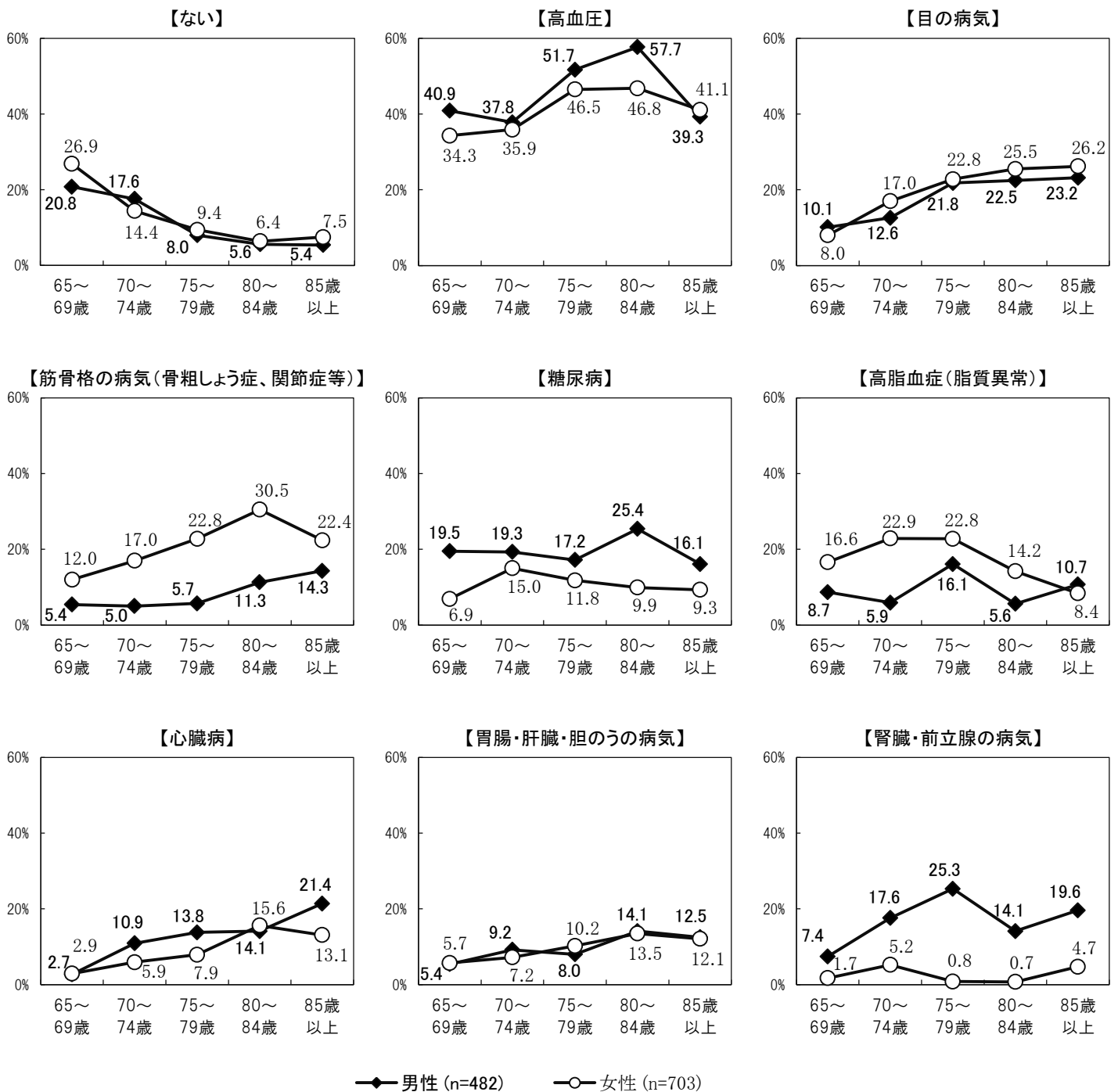
性別にみると、男性は女性よりも「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」が約10ポイント高く、女性は男性よりも「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」「高脂血症(脂質異常)」が約10ポイント高くなっています。

図 性別 治療中、または後遺症のある病気

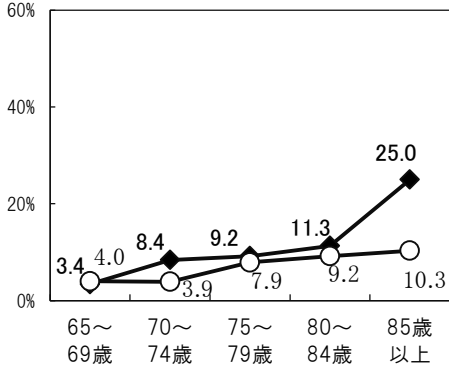


性年齢別にみると、「高血圧」は75～84歳で有病率が高く、男性では50%以上、女性では40%以上となっています。「目の病気」は男女ともに75歳以上で有病率が20%を超えています。「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」は、女性の年齢が高い層で有病率が高く、女性の80～84歳では30.5%となっています。「糖尿病」の有病率は、いずれの年齢層でも男性は15%を超えています。「高脂血症(脂質異常)」は、女性の年齢が低い層で有病率が高くなる傾向がみられます。「心臓病」は65～69歳では有病率が低いものの、年齢が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がられます。「腎臓・前立腺の病気」の有病率は、男性の70歳以上で約15～25%となっています。「耳の病気」は男性の85歳以上で25.0%と高くなっています。

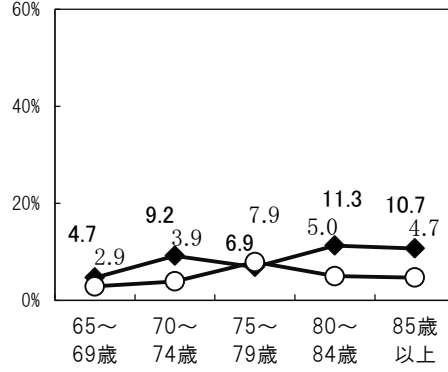
図 性年齢別 治療中、または後遺症のある病気



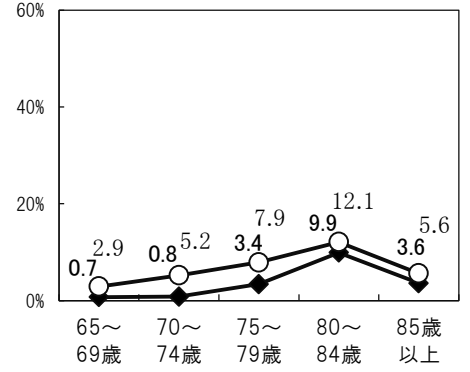
【耳の病気】



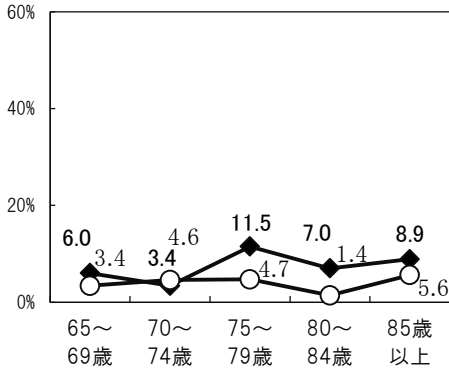
【呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)】



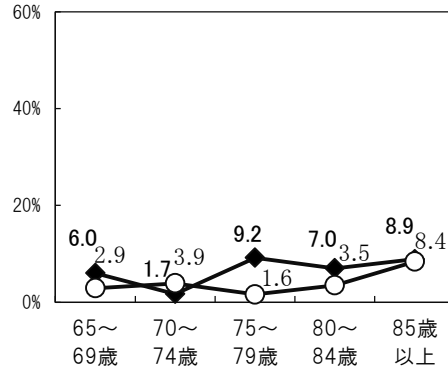
【外傷(転倒・骨折等)】



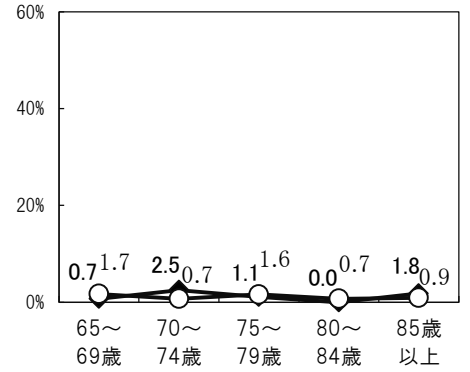
【がん(悪性新生物)】



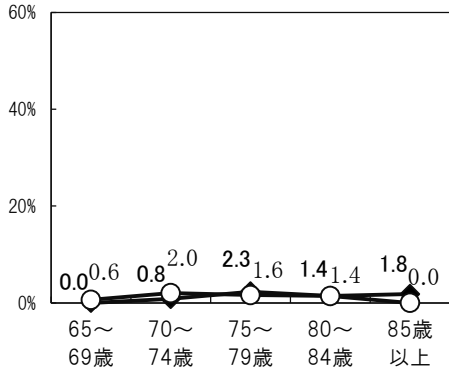
【脳卒中(脳出血・脳梗塞等)】



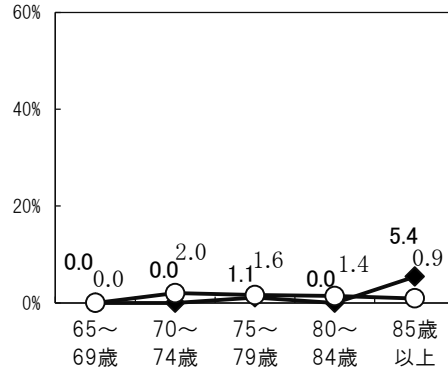
【うつ病】



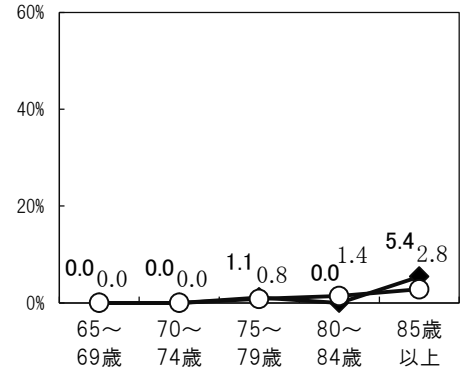
【血液・免疫の病気】



【パーキンソン病】



【認知症(アルツハイマー病等)】



◆ 男性 (n=482) ○ 女性 (n=703)